



月刊「ワークホームだより」1月号

発行:平成29年12月25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111



「療育視点」と「意思決定支援」

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

早いもので、あと数日で新たな年を迎えます。この一年、様々なことを感じ考えましたが、一番に悩んだのは「療育」と「意思決定」ということです。単純化していえば、「《療育》という視点は本人の《意思》を無視しているのではないか」という問題提起です。

私が「療育」という言葉を使う時には、「利用者の今できることに満足せず、出来る範囲を拡大させてあげたい」との思いを込めています。ですからワークホームの実践についても、「今できる作業だけをさせるのではなく、もっとできる可能性を発掘するように療育的に関わろう。彼は、『これしかできない』などと考えずに、どうすれば彼が出来るようになるのかを考え工夫し実践するのが職員の役割であり、それこそが職員の専門性なのだ」と、職員に話をしています。しかし、こうした療育視点は、「障害児」ならまだしも、「障害者」にまで広げるのは問題であると言われるようになりました。「本人の意思を無視しているのではないか、あるがままの本人を認めるべきだ」という意見です。「今のままでいいんじゃないですか、それ以上できることを彼は本当に望んでいるのですか、練習や訓練など苦しい思いをさせてまで出来ることを広げることは虐待ではないですか！」など、大人への「療育」については、大変厳しい意見が述べられるようになりました。少し違う視点ですが、保護者からも「私の息子は『一般就労』は望みません。このままワークで見ただけだったらありがたいです」などと言われると、一生懸命に利用者の出来る範囲を広げる取り組みを進める必要はないのでは、と考え込んでしまうのです。確かに、「一般就労」は簡単ではありませんし、「一般就労」が「幸せの条件」とも言えない訳ですから、先ほどの保護者さんの意見も受け入れてはいるのですが・・・。

それでも、あえてワークホームは「少し上」を目指す取り組みを進めたいと思います。本人の意思も大事です。ですから、出来るだけ本人の意思を確認するようにしています。そのうえで、「こうしてはどうですか?!こんな生き方も、ありますよ!少し頑張ればこんなことも出来るようになりますよ。職員も出来るだけの応援をさせていただきます、どうですか?!」と、本人の意欲を喚起するような積極的な問題提起をしたいと思います。

私は、人の生き方として「今できることに満足せず、少し上を目指す生き方」はとても大事な視点であると思っています。「人は生涯発達する」とも考えています。障害者の「意思」を尊重する取り組みは、先ずは「意思の形成」を応援することから始まります。具体的には、多様な世界を体験する取り組みであり、様々な場面での「選択肢」の提示と「選ぶ経験」を積み重ねることが意思形成には必要だと考えています。今に満足する生き方だけでは世界が広がらないのです。ですから、「意思決定」のための「意思形成」を進めるうえでも、少し上をめざす本人の生き方と職員の支援視点が必要なのではないかと思っています。つまりその視点こそが「療育」なのだとは今考えているのです。

まだまだ整理がつかずに悩んでいる状況です。2018年には還暦を迎える自分がこんな「青臭いこと」で悩んでいるのです。

1月行事予定

- 1月4日(木) 仕事始め、
- 1月10日(水) サークル活動、工賃支給日、
- 1月17日(水) サークル活動、料理教室
- 1月24日(水) 避難訓練、職員会議
15時作業終了後避難訓練のため
お迎えは15時30分をお願いします
- 1月31日(水) 清掃

<1月の指定休>

- ・1班:10・17・24・日曜日
- ・2班:4・11・18・25・日曜日
- ・3班:5・12・19・26・日曜日
- ・4班:6・13・20・27・29・日曜日
- ・5班:8・15・22・30・日曜日
- ・6班:9・16・23・31・日曜日
- ・7班:毎週土曜・日曜日

※12月30日(土)~1月3日(水)まで、
ワークホームはお休みとなります。



洗濯機が新しくなりました!

12月10日、開設当初から使っていた自動洗濯脱水機の入替えをGOTOさんの方で行いました。外観サイズは同じですが洗濯容量は18kgから35kgと倍になりました。また最新という事で容量が増えても使用水量に変化はありません。ワークホーム高砂は瀬戸内海環境保全特別措置法という法令の適用内に立地している為、排水処理設備で最大水量が103m³/日と決められています。生産量を増やす為、安易に機械を増量することができません。今回の機械入れ替えにより効率がアップされ生産性の向上に繋がると期待しています。(楠)



今月の担当は藤本でした。



クリスマス会を開催しました☆



12月17日、保護者会主催の親子クリスマス会が開催され、59名の親子がマジックショーなどを楽しみました。食堂の飾りつけを役員の方や職員、利用者で行った後、11時からボランティアグループによるショーがはじまり、腹話術やマジックショー、皿回しなどの大道芸も見せていただきとても盛り上がりました。その後、クリスマスソングを歌ったり会食を楽しみ、恒例のビンゴゲームも楽しみました。ビンゴゲームでは役員の方が用意した豪華景品で、利用者の盛り上がりも最高潮に達しました。最後にはクリスマスケーキをみんなでおいしくいただき、とても楽しいひと時を過ごしました。(松藤)



WHトピックス

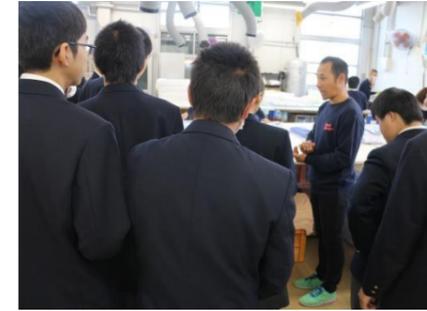
11月29日、加古川歯科保健センターの衛生士の方に来て頂き、今年も歯磨き指導を行いました。歯磨き指導とは、歯磨きの仕方や歯垢のチェックをして頂くもので毎年一回実施しています。昨年、歯垢が多いと言われた方は、昼休みの時間を使って1年間、重点的に歯磨きの練習を行いました。その成果もあり、今年は歯垢が減ったり、「綺麗に磨けてるね」とお褒め頂いたり改善してきている様子が見えました。しかし、虫歯があったり、まだまだ歯垢が多い方もおられました。これからも作業以外の場面での関わりを意識し、歯磨きについて考えていきたいと思います。来年の目標は全利用者さん、「綺麗になった」とお褒め頂くことです!!(宮本)



11月30日、姫路市文化センター大ホールで「ばんたんゆうあい文化祭」が開催され、今年は12名の利用者が見学に行きました。太鼓演奏に始まり、合奏・合唱・習字パフォーマンスなど、16グループの色々な演目を楽しみました。「次は何か？」とプログラムをみてワクワクしたり寸劇に大笑いをしたり、よさこいやフラダンスを観て「自分もやってみたい」という利用者さんの感想も聞かれました。きっと舞台の上に立つと気持ちがいいでしょうね!!来年度は、みんなで舞台上に上がれたらいいなという気持ちで帰路につきました。(三輪)

今年もWHを見学に来られました(東はりま特支・曾根小)

11月21日、東はりま特別支援学校の1年生が見学にお見えになりました。説明を聞く班では働く為に必要な「時計を読む力・計算する力・連絡報告」などの話を施設長からしていただき、皆さん真剣に聞いておられました。見学班では働く為の工夫などを紹介し、短い時間でしたが、先輩たちが真剣に働く姿に触れてもらいました。



東はりま特別支援学校1年生

また、12月4日・5日の2日間、曾根小学校4年生が福祉学習の一環で見学されました。工場内で洗濯の順番を説明し、防水シートを実際に畳んでもらいました。「端っこを揃えるのが難しい」「1日に千枚を畳むのは大変!」と声が上がっていました。最後に「是非、ここで働いている利用者さんの様子を覚えて帰ってください。」と伝え、障害があってもできることはたくさんあることを少しでも感じてくれたらと思います(楠)

曾根小学校4年生



今月も研修でたくさん学びました

就労支援フォーラム NIPPON2017に参加して

12月9日、10日と東京で行われた就労支援フォーラム研修に桂が参加してきました。セミナーでは、平成30年4月1日から施行される就労定着支援や報酬改定、これからの福祉の課題や自主生産品を販売する経営戦略の話など、今のワークホームが抱える課題を改善するうえで、とても貴重なお話が聞けたように思います。今回の研修を職員間で共有して、ワークホーム高砂をもっと質の高い施設にしていきたいと強く感じました。また、今回の研修の一部が1月14日(日)19:00からNHKの「バリバラ」という番組で放送されますので、良かったら観てください。(桂)



障害者就労支援研修会に参加して

12月7日に加古川で開催された障害者就労支援研修会に参加させて頂きました。今回の研修会は、加古川障害者就業・生活支援センターの主催で、『地域の就労支援力』を高めるために」というテーマで行われました。加古川はぐるま福祉会高井理事長さんのお話やハローワーク加古川の就職促進指導官のお話、また、当事者のお話を聞かせて頂きましたが、研修会では頻りに「自己理解」という言葉が出ていました。障害者の就労支援者として、このことは意識しなければならないと随分と考えさせられました。今回の研修を支援現場に活かせるようにしていきたいと思っています。(楠)

インターンシップ募集の説明会に参加



12月17日(日)に姫路商工会議所で行われたマイナビ主催のインターンシップ説明会にあかりの家を代表してワークホームから桂が参加してきました。就職フェアには何度か参加させていただいたのですが、なかなか興味を持ってくださる方が少なかった中で、今回は、あかりの家のブースに立ち見の方が出るほど、たくさんの方に来ていただきました。これを機に、一人でも多くの学生の方がインターンシップに参加していただき、共に仲間として働ければ嬉しいです。(桂)

月刊「ワークホームだより」2月号

発行:平成30年1月25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111



近づく製品化！「小粒納豆なつこちゃん」



ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

納豆作業班が研究・開発を続けてきた小粒の大豆を使った納豆が、いよいよ完成に近づいてきました。現在の「なつこちゃん」は、ご存知のように「大粒」で仕上げています。大粒大豆は北海道産の「とよまさり」という品種で、大豆の味が良いとなかなかの評判です。しかし、小粒も食べたいとのニーズも根強くあり、納豆作業班では担当の西野主任や三輪支援員、金本支援員、中右支援員が大豆の種類や粘り具合、カップの選定、たれやからしの研究など、小粒納豆の安定化に向けた研究を約1年前から続けてきました。

納豆は「生きもの」なので、その日の温度や湿度はもちろんのこと、カップに詰める作業時間や発酵時間なども品質に深く関わっています。もっと言えば、誰がその日に作業をしたのか、作り手によって味は左右されるといっても過言ではないのです。正にこれが「手作り」の難しさであり、美味しさの秘訣でもあるのです。

現在の「大粒納豆なつこちゃん」は、法人理事で保護者でもある今津房子さんからそのノウハウを伝授していただき、福崎町に本社を持つ(有)相沢食産の相沢勝也社長のアドバイスもいただいてようやく安定した製品作りができるようになりました。そしてこのたび製品化しつつある「小粒納豆なつこちゃん」も、相沢社長や今津さんをはじめとする多くの方々のご協力とご支援のもとで発売にこぎつけようとしています。この場をお借りして感謝の意をお伝えしたいと思います。

さて、このたび製品化する「小粒納豆なつこちゃん」は、北海道産大豆の「ゆきしずか」という品種です。この品種は、道央を中心に栽培されていて風味がよく納豆に適しているといわれています。販売は、3月からを目途に現在準備を進めています。発売いたしましたらこの紙上でも紹介させていただきますので、是非ともご賞味いただければと思います。毎日、納豆作業を頑張っている利用者と職員に熱いエールを今後ともよろしく願います。

保護者役員会が開催される！

1月14日、新年になって初めての保護者役員会がワークホームの食堂で開催されました。当日は、藤野会長をはじめとする13名の企画委員がお集まりになり、2月25日に開催予定の「一年を振り返る会」の企画や新年度体制について話し合われました。また、注目していた4月からの「食事提供体制加算」の見直しなど、報酬改定についても情報交換が行われるとともに、利用者の通院や入院に関する付き添いなどの課題についても話し合われました。(齋藤)



賀詞交歓会が開催される！

1月23日に「神戸メリケンパークオリエンタルホテル 瑞天」で賀詞交歓会が行われました。ワークホーム高砂からは保護者の福田さんと増田さん、桂支援員が参加しました。豪華な食事を頂きながら福祉に携わる人達と交流が持てとても有意義な時間となりました。(桂)

2月の行事予定

- 2月7日(水) サークル・料理教室
- 2月14日(水) 清掃・工賃支給日
- 2月21日(水) 会議日
※会議の為 15:00で作業終了となります。
- 2月25日(日) 保護者会 一年を振り返る会
- 2月28日(水) サークル



お知らせ

来月より公休班を「土・日曜班」と「日・月曜班」の2つにする事としました。これにより利用者さん全員の連休を毎週確保できるようになります。2月1日から3月31日までを試行期間とし、大きな問題がなければ4月1日より正式運用したいと思っています。また半期(6ヵ月)ごとに見直しをする予定にしています。ご不明な点がございましたらご連絡ください。

前田看護師による感染症対策研修会

ワークホームでは、月1~2回、前田看護師を講師に感染症対策の為の研修を実施しています。毎回、朝の引継ぎ時間を利用し、15分程行っていただいております。これまで、症状、処置、予防等の観点からノロウイルス、病原性大腸菌、インフルエンザ、疥癬等、様々な感染症についての内容を教わっております。こういった感染症にならない為にはやはり手洗いうがいが一番大事であるとのことです。現在、ワークホームでは手洗いうがいの励行、また消毒用アルコールジェルを使用するといった予防に努めております。まだ、感染症が流行する季節が続いております。各ご家庭におきましても感染症予防にご協力お願い致します。(宮本)



もしもに備えて！～避難・消火訓練～

1月24日(水)に避難訓練と消火訓練を実施しました。避難訓練のちょうど1週間前の1月17日といえば阪神淡路大震災があった日で、今回の避難訓練はより緊張感のあるものでした。いつどんな災害があるかわからないからこそ避難訓練を実施する意味があり、もしもの時に、今回のような避難訓練が活かされると幸いです。(桂)



今月の担当は楠でした。



ワークホーム高砂平成 30 年のスタート!



納豆作業班

2018年戌年🐶 今年もワンダフルで粘り強く頑張ります!
 暖かい年末年始のお休みの後の納豆作業は、“寒さ”と“暑さ”の戦いです。もちろん冬なんですから寒くて当然ですが、午後からの豆を炊く作業からは35度になることもあります。それでも、みんなで納豆づくり頑張っています。少しメンバーの入れ替えがあったり、納豆を納めさせていただいているスーパーヤマダ様の担当部署が「青果」から「日配」に変更になったりと変化はありますが、年末から年始開けても“なっここちゃん”買っていただいております。じわじわと売り上げが伸びている感じ!です。
 年明け、やっぱり小粒納豆開発続けています。なかなかの「もう少し!」なのですが、、、初詣にもお願いしてきたので、今年度中には発売いたします! (西野)



クリーニング作業班

今年も年末年始の5日間休暇を取ることができました。思い返せば、3年前の連続5日休暇初年度は、年始から職員・利用者さん全員が出勤しさらに昼休みを15分短縮して対応しました。翌年には職員が全員出勤しましたが、今年は職員・利用者さんとも通常の勤務で対応しました。毎年恒例のように始まる年始のタオルタワー!今年も天井に到達していました。しかし今年はずっと違っていました。去年はタワーが無くなるのに1週間強の時間を要しましたが、今年はタワーがみるみる内に小さくなり3日間で消えてなくなりました。他の作業においても同様で、直ぐに通常作業量に戻すことができました。GOTOさんの協力もあり、何より利用者さん一人一人が確実に力をつけました。年始は利用者さんの成長を実感できる大切な時間のような気がしました。(楠)



新たな挑戦! 木本さん(元納豆班)⇔玉木さん(元クリーニング班)作業班変更

1月4日から以前まで納豆班で作業を行っていた利用者さんの木本さんがクリーニング班に移動して来ました。主に、たたみ班で作業してもらいます。その中で今は施設等で使用する防水シートや病院の検査着の機械包装をマスターしようと頑張っています。(桂)



1月4日から玉木直人さんが納豆班に移動されました。納豆班での「清潔」「衛生」、「正確な細かい作業」と覚えることがたくさんあります。数字に強く細かい作業が得意な玉木さん、集中力アップで奮闘中です!(三輪)



姫路福祉専門学校から実習生が来ました

1月15日(月)から1月26日(金)までの10日間、姫路福祉専門学校1年生の宇野さんと大柳さんの2名がワークホームに実習に来られました。初日は障がいのある利用者さんとうまく接してよいのかわからない様子でしたが、日が経つにつれて徐々に利用者さんとの距離を縮めていき、後半は利用者さんの特性に応じて声掛けをする場面が見られました。短い期間でしたがワークホームで学んだことを今後活かしてほしいと思います。(桂)



給食トピックス

納豆配布開始



12月18日にひでかつ給食さんとの給食委員会を行いました。そこで食事提供体制加算の改定が見込まれることを踏まえて、月・水・金はお汁をなくす方向で話は固まりました。お汁の代わりに納豆を配布することになりました。納豆が食べられない方に関してはお自宅に持ち帰って頂くようになっていますので、ご理解・ご協力の程お願い致します。(中右)

お楽しみメニュー開始

ひでかつ給食さんのメニューですが、月に一度、メニューにカレーを取り入れています。利用者さんからは好評で、よく召し上がっておられます。先日、給食委員会の際にカレーのようにパスタや丼ぶりなどお楽しみ給食を増やして欲しいことをひでかつ給食さんへ提案しました。1月10日、早速ミートスパゲッティをメニューに取り入れてくださいました。パスタも好評でした。今後は毎週火曜日をお楽しみメニューの日としてメニューを組んでいきたいと思っています。(中右)



年末年始のサークル活動報告!

現在、ワークホーム高砂では月2回、水曜日にサークル活動を行っています。昨年最後のサークルでは、段ボールを使って“戌年の絵”を制作しました。4人グループになり、パーツごとに協力して描き上げた作品は、現在ワークホーム高砂の階段に掲示されています。今年最初のサークルでは、15日より産休に入られる大谷さんのお別れ会を行い、全員で手紙を書きました。元気な赤ちゃんが生まれてくること、また大谷さんと働けることを、職員・利用者一同楽しみにしています。(岡田)



GH オリーブの家の年末年始



平成30年になり、早一ヶ月。みなさん、年末年始は楽しくお過ごしできましたでしょうか?美味しい料理をたくさん食べたり、面白いテレビを見たり、田舎に帰ったり、はたまた寝正月だったり様々だったと思います。そこで、今回はオリーブの家の年末年始の様子を一部紹介したいと思います! 12月30日、年末ということで今津勇三さん、大西さん、竹林さん、宮本で明姫幹線沿いにある餃子の王将に夕食を食べに行ってきました。ラーメン、餃子、麻婆飯...、みなさんパワフルな食事を堪能されていました。1月2日、今津勇三さん、桂副主任で曾根天満宮に初詣に行ってきました。人が多く中、無事にお参りをすることができました。お二人とも、今年の目標を強く誓ってきたことだと思います。今回は上記の内容を紹介しましたが、今後もこういったグループホームならではの活動を増やしていけたらと思います。(宮本)

年末の大掃除



昨年の最後の清掃日には、利用者・職員全員でいつもお世話になっているワークホームの大掃除を行いました。普段できていない所や窓ガラス、階段に至るまでピカピカにしました。新年を気持ちよく迎える準備をし一年の作業を締めくくることができて良かったです。(楠)



グループホーム記念式典

今津さんの所有であったグループホーム希望山荘日笠とオリーブの家が、この度社会福祉法人あかりの家に寄付していただくことになり、12月25日に希望山荘日笠において感謝式典が行われました。西尾理事長から今津房子さんと香苗さんに感謝状が渡されました。そのあとはケーキとコーヒーで希望山荘の思い出話に花が咲きました。(木澤)



月刊「ワークホームだより」3月号

発行:平成30年 2月 21日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111



「バレンタインデー」への対応

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

ある男性利用者のお母さんから相談があった。ある時お母さんが息子さんの部屋を掃除していたら女性利用者からの濃厚なラブレターが見つかり、どうしたものかというものだった。お母さんとしては、障害があるから恋愛はダメなどとは考えてはいないし、本人にラブレターを見つけたことを報告するかどうか迷われている様子だった。以前にも高価なプレゼントが届いたりして、どう考えればいいのか悩んだ末の相談だった。おまけに、来週にはバレンタインデーが控えていたから、ワークとしても対応を議論する必要に迫られた。

結論から言えば、今年はワークでのバレンタインチョコやプレゼントのやり取りは禁止とした。その話をしたのがバレンタインデーの前週だったから、既にチョコを購入している利用者も中にはいた。だから、これからは購入しないこと、どうしても渡したいのなら担当職員立会いの下で渡すということを基本ルールとした。ここまで利用者の行動について「介入」するのかわかれるかもしれないが、もちろんこんな対応は私がワークにきて初めてのものであった。

ところで、世の流れからいえば、こんな対応は障害者の人権侵害だと認定されるのかもしれない。しかし、今回の私のテーマは、私が責任を持つ職場でバレンタインデーに伴う「混乱を避ける」ということ、加えて、知的な障害のために人との付き合い方についてわかりづらさを抱えている利用者に対して「異性（人）との付き合い方」に関して具体的に応援するというものであった。恋愛や性の話題になるとちょっと距離を置きたいものだ。しかし、バレンタインデーが近づくとチョコがお店に並び、「今年は〇〇君にあげるねん！」なんていう会話も耳にすることになる。昨年までは、そんなざわつきを静観していたのだが、今年は「静観」ではなく「介入」しながら、人と人との付き合い方について正面から話をするようになったのである。「正解」などない取り組みであるが、私も職員もバレンタインチョコのやり取りに介入することで、自分たちの責任の一端を考える良い機会となったし、何よりも障害者の「恋愛」について真正面から考えるテーマをいただいたと思っている。

医療関連サービスマーク無事認定

昨年 10 月に書類審査、11月14日に実地調査を経て、2月1日付けで医療関連サービスマークの認定を受ける事ができました。今回は、GOTO さんに協力してもらい実地調査に立ち会っていただきました。今後も協力しながら解決していかなければならない問題が山積していますが、双方で協議・協力しながら解決していきたいと思っております。今回の審査を教訓にして3年後の認定時期にはスムーズに業務をこなせるようシステム整備をしていきたいと思っております。(楠)



3月の行事予定

- 3月 7日(水) サークル活動・料理教室
 - 3月 14日(水) 清掃、工賃支給日
 - 3月 21日(水) サークル活動・職員会議
 - 3月 28日(水) お疲れさん会
- ※お疲れさん会は 17 時終了予定にしています
のでお迎えの程、よろしくお祈いします。



~新人職員紹介~

2月1日より、ワークホームに新しい職員が加わりました！
ワークホームで働きながら、サッカーチーム「バンディオンセ加古川」のメンバーとしても活躍中です。支援員として働きながらプロのサッカー選手になることを目標に頑張っておられます！
(松藤)



- 名前：伏木 一紘（ふしき かずひろ）
- 年齢：☆26歳☆
- 主に希望山荘日笠の遅出勤務を行います。
- 抱負：皆さんの人の良さ、元気で明るい面に日々触れ合いながら楽しく、お仕事をさせてもらっています。スポーツで培ってきた元気を活かして、少しでも皆さんに元気やパワーを伝えられるように精進してまいりますので、どうぞこれからよろしくお願いします。

個別懇談会を実施しています。

平成 29 年度も終盤になり、次年度の個別支援計画の見直しを含めた個別懇談会が始まりました。延べ 10 日間に渡る懇談会は、ご本人とご家族の方に出席いただき「ご本人の思い」を中心にお話を伺っていきます。30 分程度の短い時間ですが、年に 2 回こうした機会を持つことにより色々なお話ができ、ご家族との連携を深める貴重なひと時となっています。
(西野)



危険物取扱保安者講習を受けました。

ワークホーム高砂クリーニング班ではボイラーを使用しています。燃料に A 重油を使用している為、施設内には容量 5000L の地下タンクが設置してあります。重油という危険物を取り扱っているのでクリーニング班の男性職員5名は危険物取扱者乙種4類という資格を取得し日々安全管理に努めています。以前は外部委託業者の危険物取扱者に管理をお願いしていましたが、3年前、日常使用する我々が責任を持ってやるべき！という観点から受験をし免状を取得しました。今年度は3年に一度の免状の更新時期を迎え、1年をかけ5名全員保安講習を受講し更新することができました。保安講習では普段聞くことのできない福祉分野以外のお話を聞くことができ、とても新鮮で刺激になりました。今後も自分たちの責任で安全管理に努めていきたいと思っております。
(楠)

今月の担当は中右でした。

☆ワークホーム高砂作業報告☆

「新たな公休班スタート」

～クリーニング班～

2月1日より、公休班の二班制がスタートしました。それに伴い、現在、火曜日から金曜日は利用者さんが全員揃う形となっています。その為、一日の作業生産量もアップし時間的余裕もでき、ゆっくりと利用者さん一人ひとりに関わることができていると感じています。

今後の目標としては積極的に個々の目標にチャレンジしていきたいと思えます。例えば、「新しい作業を覚える！」「機械を使えるようになる！」「しっかりと報告ができるようになる！」等々。目標達成を念頭におきながら利用者さん、職員共々日々奮闘中です！（宮本）



「新メンバーを迎えて」

～納豆班～

今年の1月から、新しく玉木直人さんが納豆班に加わりました。最初は環境の変化もあり、時折混乱も見られましたが、一ヶ月を過ぎた頃から徐々に作業のリズムにも慣れ落ちて作業に入れるようになってきました。納豆作りの工程や配達等流れを素早く理解し、現在ではカップ入れやラベル張りの作業を中心に頑張っています。ラベル張りの際、手の位置や押さえる場所等を細かく伝え、一回一回確認の声をかけながら丁寧な作業を心がけて臨んでもらっています。なっとこちゃんを買っていただくためには味はもちろん、見栄えも大切に仕上げています。今後も丁寧な支援と製品づくりをしていきたいと思っています。（中右）



歯科検診を行いました！！

2月15日に歯科検診がありました。歯医者さんに慣れている方や緊張して口が開きにくかった方等、様々でした。検診後、お医者さんから「全体的に虫歯がある利用者さんが多いです。小さな虫歯も見られますので、結果が届いたら虫歯のある方は治療をしてください。」とお話がありました。歯科センターから歯科健診結果が届いたら、各ご家庭に持ち帰っていただきます。皆さん、毎日の歯磨きをていねいに続けてください。（三輪）



お楽しみメニュー♪♪

2月13日のお楽しみメニューはカツ丼でした！「おいしい！」という声も多く頂いてますが、一部では「からい」という意見もありました。おいしくより良い食事を提供できるように今後もひでかつ給食さんとも連携をとりながら考えていきたいと思えます（中右）



料理教室に行ってきました♪♪

2月17日、女性チームで本年度最後の「料理教室」へ行って参りました！！今回のメニューはぶりの柚子胡椒焼き、白菜とわかめのサラダ、きのこスープ、ミルクかん、巻き寿司のボリュームのある計5品を作りました。一年間を通して、報告ができることや先生方に対して丁寧な言葉で話しているか等、目標にそれぞれ達成出来ているのではないかと感じています。これまでに身につけた調理技術を忘れないよう、家庭やワークホームにでも活かして頂きたいと思えます。（岡田）



播淡施設長・職員研修会

2月2日、加西市民会館で行われた播淡研修会に齋藤施設長と桂が参加しました。今回は「知的障害者関係施設の課題と報酬改定について～最新情報を踏まえて～」というテーマで、障害者関連施設にとって大変重要な研修内容でした。また今年の4月からは「就労定着支援事業」などの新しい事業が始まる等、最新の情報を知る良い機会となりました。（桂）

職員の研修報告！！

全自者協近畿ブロック情報交換会

2月15日、16日に神戸市にあるラッセホールにて行われた「全自者協近畿ブロック情報交換会」に齋藤施設長と共に参加させていただきました。内容としては、自閉症支援についての講話、事例を基に意見交換、また各施設の紹介等でした。率直な感想としては、施設が違えば支援の方法も違うということ強く感じました。一つの事例に対し意見が飛び交う状況を目の当たりにし、かなりの刺激を受け、自分自身の支援について考え直す機会にもなりました。また、施設紹介ではワークホームの課題等もふまえながら、他施設の方の前で発表させていただきました。緊張緊張の大変勉強になった2日間でした。（宮本）



インターンシップが開催されました

2月5日、9日、19日、インターンシップが開催されました！今回、参加されたのは就職活動真っ只中の大学生の方々。5日のインターンシップでは、施設長による施設内見学の後、岡田が質疑応答に参加させていただきました。ワークホームに来た理由を聞いてみたところ、「先月のインターンシップ説明会で一番魅力を感じました」とのこと。こういった機会を通して1人でも多くの方に興味を持っていただき、人材確保に繋がればいいなと思えました。私自身も大変、貴重な経験となりました。（岡田）



月刊「ワークホームだより」 4月号

発行:平成 30年 3月 23日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

熱き心と冷たき頭、たくましき腕（かいな）を目ざして！

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

ワークホームの施設長となって早いもので6年目の春を迎えました。本年度も保護者をはじめ関係者の方々のご理解をいただきながら真摯に利用者支援に取り組みたいと思いますので、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いします。

クリーニング事業の連携企業である「株式会社ゴトウ・アズ・プランニング」との関係については、良きパートナーとして事業運営を進めて行けるようになっていきます。もちろん課題を上げればきりはありませんが、安杖社長との定期会議を通して現状と課題の共有が図られているため、課題解決に向けた前向きな取り組みは本年度においてもできるものと確信しています。

また、保護者会については、藤野会長のリーダーシップのもと本年度も親子レクリエーション行事などの楽しい交流行事に加えて、利用者・保護者の課題整理と今後必要な福祉サービスについて積極的に意見交換していくとの方向性が役員会で確認されています。こうした動きも踏まえながら、本年度も保護者会との連携を密に保ち協力関係を大切にしながらスムーズな事業運営に努めたいと思います。

ところで、本年度の事業推進の方向性としては、これまでと同様に利用者ひとり一人の生活課題と就労課題をしっかりと踏まえ、真摯に利用者支援に取り組みたいと思います。工賃については、平均月額3万円を最低目標に据えるほか、利用者の地域生活の推進についてはグループホームの体験利用等を通して生活課題の抽出とそれに向けた具体的支援を着実に進めていきたいと考えています。また、あかりの家との協力・連携を進め、重度の自閉症の方の受け入れを推進するなかで職員の支援力を一層高めるよう努めたいと思います。納豆事業については、「小粒納豆なっとこちゃん」の製造販売を本格的に始めるほか、一昨年度から検討を進めている新たな納豆作業場の整備によいよ着手できるものと考えています。

福祉現場は職員が「宝」です。質の高い職員がいるから質の高い実践ができるのです。本年度の私の中心的課題は、やはり職員の育成であると強く認識しています。これまでと同様ですが、「熱き心と冷たき頭、たくましき腕（かいな）」を目指す職員像にして、本年度も職員一丸となり利用者の支援に邁進したいと思います。

保護者役員会が開催されました！

3月11日、ワークホーム高砂食堂において保護者役員会が開催され14名の企画委員の方が熱心に新年度事業などについて話し合いました。今回の議題は、次年度の役員改選と事業計画が主な内容で、役員については副会長補佐を置くことが話し合われました。また、次年度の事業として親子レクリエーション行事については利用者の意見も参考に内容を検討することや、他施設見学研修事業については、クリーニング事業を行っている広島の事業所を見学する案が検討されました。また、利用者や保護者の高齢化等を踏まえ今後必要な福祉サービスについて意見交換をしたほか、保護者会として法人あかりの家の運営に今後も協力するとともに、必要なサービス事業の推進を要望していくことも話し合われました。

次回の役員会は4月15日に予定されていて、5月20日には平成30年度保護者会総会が予定されていますので、保護者の方々のお出席をお願いしたいと思います。

4月の行事予定

- 4月 4日（水） ・職員会議日
- 4月 11日（水） ・料理クラブ・お花見会・工賃支給日
- 4月 15日（日） ・保護者役員会（10：00～）
- 4月 18日（水） ・清掃日
- 4月 25日（水） ・サークル活動

※4月11日のお花見会はサークル時と同様の時間帯に終了します。



グループホーム 消防訓練を実施



3月11日にオリーブの家の消防訓練を実施しました。オリーブの家では初めての訓練だったということもあり、利用者さんも緊張の面持ちでした。内容は、通報訓練、避難訓練、消火訓練、消防署の方による講話でした。避難訓練では「しっかりと避難できていました」と消防署の方からのお褒めの言葉を頂き、その後は一人ずつ水消火器を使った消火訓練も行いました。

ワークホームでは定期的に行っていた消防訓練ですが、やはりグループホームでも継続して実施していく必要があると感じました。また、今回の消防訓練実施に伴い、事前に利用者さんと一緒に近隣の方への挨拶回りに行き、少しでも地域の方とも触れ合うことができ貴重な時間を過ごせたと感じています。また消防訓練はオリーブの家だけではなく希望山荘や友愛の家でも3月18日に実施しました。（宮本）



今月の担当は桂でした。

平成 29 年度のサークル活動を振り返る



○スポーツサークル

今年一年、スポーツサークルは縄跳び、サッカー、写真と3チームに分かれて活動をしました。縄跳びは二重跳びが出来るようになること、サッカーは正しくパスを行いドリブルも出来るようになること、写真は様々な場所へ行き撮影することなどを目標に活動しました。そういった目標の中で利用者の皆さんが、少しずつ出来なかったことが出来るようになっていく姿を見て、私自身嬉しく思うことが多かったです。一方で、「全員が一緒に動けるのだから、もっと車を使って遠くへ行く事も考えた方がよかったな」ということを、この一年を振り返って感じました。平成30年度にはもっといろいろなことを経験することが出来るよう手助けする方法を考えていきたいと思います。(松藤)



○文化サークル

今年度のサークル日は雨の日が多く、利用者さん全員で展示物を作る機会に恵まれました。5月はグループに分かれて鯉のぼり、6月は折り紙で花をたくさん作り紫陽花を、7月は星の七夕の飾りを作りました。干支の戌もみんなで描きましたね。一年の締めくくりは塗り絵をしました。難しい塗り絵でしたが、一人一人が集中して塗ることが出来ました。(三輪)



瀬戸内さん結束作業に挑戦中！

クリーニング作業で1番に難易度が高い結束作業に3月から瀬戸内さんがチャレンジしています。

結束作業を行うためには、①数の正確性②スピード③丁寧さ④集中力⑤商品の把握など様々な技術が必要となってきます。それらの課題がクリアできるよう職員がマンツーマンで応援をしています。結束作業の支援は利用者だけではなく職員の技量も試されるので職員にとっても重要な作業になっています。(桂)



マイナビ就職フェアが開催されました



今回あかりの家にとっては初めてのマイナビを活用した就職フェアを開催しました。日程は3月5日(月)、8日(木)、10日(土)の3回に渡って実施。ブースに来られた方は3回生の学生さんで私たちの話を真剣な眼差しで聞く姿は初々しく、私自身も新鮮な気持ちになりました。今回の就職フェアを通して、1人でも多くの学生さんが社会福祉に興味を持ち、また法人あかりの家で共に働く仲間になればいいなと思いました。(岡田)



ひでかつ給食を見学！！



3月12日(月)に齋藤施設長と中右とでひでかつ給食へ作業の様子を見学に行かせて頂きました。今回は盛りつける場面を見させて頂きましたが、一人ひとりが作業効率を意識されていたほか、異物混入のチェックや熱いうちに保温庫に入れ品質保持に気を使っている様子を見ることができました。これからは利用者の食の安全とおいしさを求めて給食会社との連携を進めたいと思っています。そういう意味からも今回の見学は大変有意義な機会となりました。(中右)



クリーニング工場大掃除



クリーニング作業が稼働していない3月11日(日)、GOTOの方と一緒に工場の大掃除を行いました。年度終わりということもあり、1年分の汚れや埃を半日かけて落とし工場をきれいにしました。働きやすい環境を目指す為にも定期的にこういった機会を今後も作っていききたいと思います。(桂)



会議でより良いワークホームへ

年度末を迎え次年度の運営体制等を決めるため、週に1回程度施設長、主任2名、副主任3名の計6名で主任等会議を持っています。次年度の運営方針を決定する大切な時期なので各職員が知恵を出し合いながらより良い運営ができるよう話し合っています。保護者様のご意見・ご要望等も反映させていきたいと思っていますのでお気軽にご要望をお伝えください。(楠)



消防署の査察見事にクリア！！

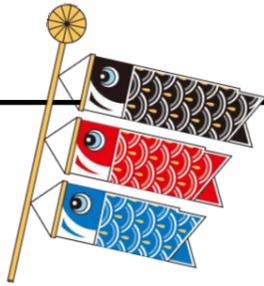
3月14日、重油地下タンクの法定定期立ち入り調査が高砂市消防局予防課職員の方二人により実施され、現在の重油タンクに問題がないことを確認していただきました。地下タンクについては、設置から15年を迎えたことから、これまで3年に一回であった漏洩検査が1年毎になったり、数量点検が義務化されるなど、漏洩点検が厳しくなりました。漏洩検査については「地下貯蔵タンク等の在庫の管理及び危険物の漏洩時の措置に関する計画届」を高砂市消防局に提出したことから3年に1回に減免されていますが、今後も消防局のご指導を受けながら安全管理をしっかりとっていききたいと思います。(楠)

月刊「ワークホームだより」 5月号

発行:平成 30年 4月 23日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



「檻」に監禁、あなたはどのように考えますか！

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

手元に色あせた一冊の本がある。『障害者の生活と教育』というこの本は、1981年（昭和56年）3月の発行である。この年は国連が提唱した「国際障害者年」で、私が大学を卒業して就職した年でもある。

この本には、「国際障害者年」の取り組みが「お祭り」に終わることなく真に意義あるものとするためには、障害者問題の社会的・実践的な解決をはかるうえから改めて現実社会の中で起きている「障害者問題」を見つめなおす必要があると論じ、障害者の生活現実に着目して、これを他人事ではすまされない問題としてとらえなおすことが実践の大きな見通しを得るためには必要だと記していた。そして、1967年9月7日付読売新聞社会面のトップ記事「‘生きる苦しみのがれて’身障家庭にこの悲劇」を手掛かりとして、障害者とその家族が抱える現実問題を究明していた。新聞記事は「東京・神田の老医師宅で起きた‘安楽死事件’は特殊なケースだったのだろうか・・・身障者特に重度の心身障害者のいる家庭で似たような悲劇がどのくらい発生しているのか」という問題意識のもとに同社の全国ネットワークを駆使してまとめた「過去5年間の実態調査」結果を紹介し、障害児を抱えた家庭で発生した事件は51ケースというものであった。その内訳は、親子心中16件、殺人35件で「犯人未逮捕」の事件は皆無でほとんどが自首しており、明らかに一般の殺人事件とは著しく異なる性格であると紹介していた。そして、読売新聞の結論は、「社会から放置された軽症の身障者は絶えず自殺を意識し、重症身心障害者のいる家庭は常に心中を胸に描いているといっても言い過ぎではなかろう。死こそ唯一の解決策。こうなると、もはや、国の責任であり、政治不在というほかない。来年では遅すぎる。きょうこの日から抜本的な対策を」と訴えかけているという内容であった。

以上紹介したのは37年前の本である。先日、三田市で精神疾患のある42歳の息子を檻に入れて監禁していた73歳の父親が逮捕されるという衝撃的な事件が報道されたが、この37年間に障害者を抱える家族の生きづらさは根本的に解決されずにいたのではないかと考えさせられた。他人事ではない、今の自分が今のあなたが問われているといえるのではないかと。事件発生から半月が過ぎ、報道の衝撃も重みも新聞はもう伝えるトーンを下げ始めている。同時に世間の関心も薄れ始めているのではないかと。せめて、障害者福祉に携わる者は、今自分は何をなすべきなのかを考え、実践のスタンスを固めなければ向こう37年後にも同じような新聞記事を目にすることになるのではないかと危惧している。

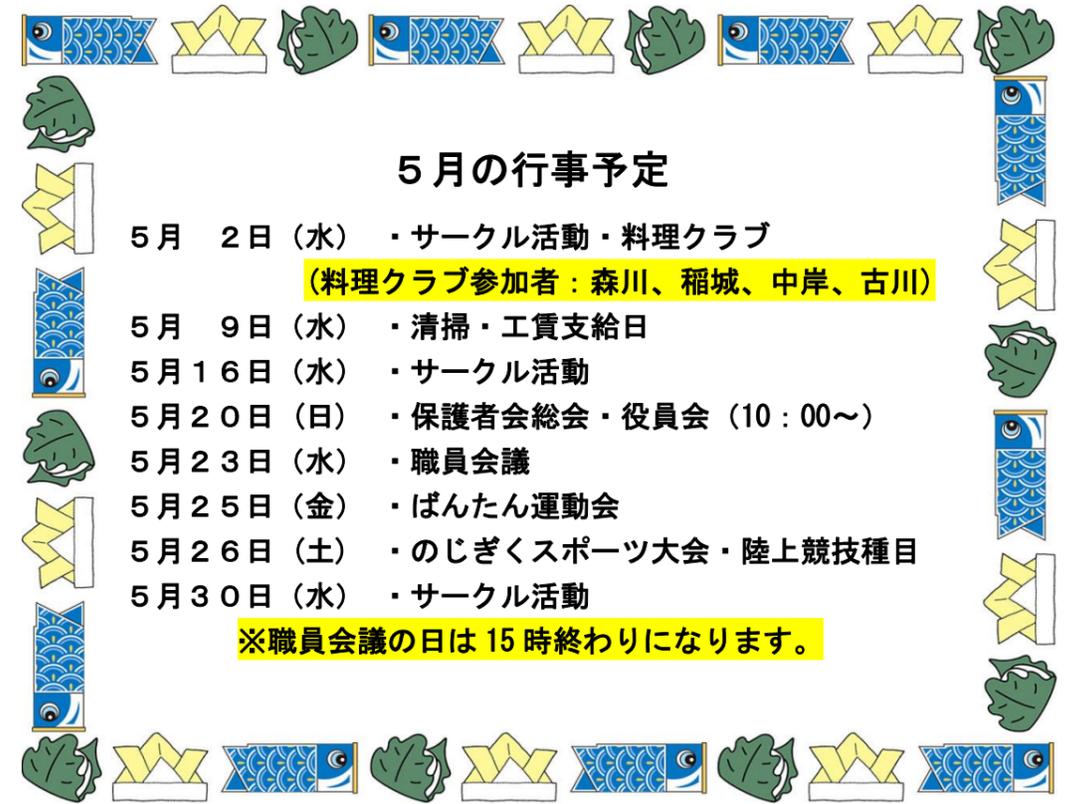
作業工賃について

今年度は報酬改定が行われ、ワークホーム高砂では、平均工賃3万円を達成しなければ報酬が大幅に減ることになりました。そこで、「働く！」を軸に運営しているワークホームとしては、この目標を必ず達成したいと考えています。また、今年度中に工賃の考え方を再整理し、クリーニング班、納豆班に限らず頑張って作業をすれば工賃が上がっていくという形を作り上げたいと思っています。工賃に関してご質問、ご要望があればお気軽に職員にお伝えください。(楠)

※平成29年度の月額平均工賃は以下のようになっていますのでお知らせいたします。

就労継続B型事業 …39,495円

生活介護事業…28,826円



5月の行事予定

- 5月 2日(水) ・サークル活動・料理クラブ
(料理クラブ参加者:森川、稲城、中岸、古川)
- 5月 9日(水) ・清掃・工賃支給日
- 5月16日(水) ・サークル活動
- 5月20日(日) ・保護者会総会・役員会(10:00~)
- 5月23日(水) ・職員会議
- 5月25日(金) ・ばんたん運動会
- 5月26日(土) ・のじぎくスポーツ大会・陸上競技種目
- 5月30日(水) ・サークル活動

※職員会議の日は15時終わりになります。

お待たせしました！小粒納豆なっとこちゃん発売です！

新発売



お待たせしました！『小粒納豆なっとこちゃん』やっとう品として発売させていただけるようになりました。大粒納豆は北海道産大豆とよまさりの“ゆきほまれ”。小粒納豆は北海道産大豆の“ゆきしずか”。同じ北海道産大豆なので“なっとこちゃん”の名前を継承しています。悪戦苦闘の結果、お椀に入っている小粒納豆、、、先日のヤマダ阿弥陀店様の放送で「小粒納豆なっとこちゃんが新発売になりました。ごま・のり・ネギと一緒に丸いお椀に入っています。そのお椀にご飯を入れると洗い物が一つ減るんです」と全館流れていました！(^)是非、ご飯を入れて食べてみてくださいね。(西野)

★新納豆作業場プロジェクト★

新納豆作業所「ワークステーションSONE(仮称)」の設計打ち合わせがいよいよワークホーム内で始まりました。整備検討の視点としては、①現在の「大粒なっとこちゃん」「小粒なっとこちゃん」をより安全に作れるように作業場を拡張する。②より清潔を守ることができるようエアシャワー室や更衣室の充実を図る。③より品質安定のために冷蔵庫や備品庫の設備を見直す等です。利用者さんの増員や販売ショップも視野に入れて話し合いを進めています。(三輪)

今月の担当は松藤でした。

春を感じる～お花見会を実施～

4月になり、新年度がスタートしました。ワークホームでは、季節行事として毎年4月にサークル活動の一環でお花見会を実施しています。近くにある天川東公園に行き、和菓子を食べながら桜を見るといったものです。4月11日、今年も楽しみに待ち望んでいましたが、当日は担当が雨男だったのかあいにくの雨模様…。急遽予定を変更し、ワークホームの食堂で桜餅を食べて過ごしました。少し顔を歪めながらお餅と葉っぱと一緒に食べる姿を見て、これはこれで季節を感じるってことかなあと思ったりもしました。こういった非日常的な経験を大事にこれからも季節行事を考えていきたいと思えます。あとは、来年度は晴れることを祈っています(笑)。(宮本)



グループホームも みんなで花見

4月1日(日)、グループホーム入居者全員で花見へ行きました。希望山荘メンバーは日笠山公園まで皆さんと歩いて、オリーブの家メンバーは日岡山公園へ車で向かいました。絶好のお花見日和で、ちょうど桜が満開の時にいったこともありとてもきれいな桜を楽しむことができました。これからもこうした行事を増やしていきたいです。(松藤)



地域清掃に参加しました

4月8日(日)に、オリーブの家の地域清掃があり、近所の東下田公園の清掃に参加させていただきました。この日は帰省利用者が多く、参加できたのは池上さん、竹林さん、楠の3名でした。当日は30名近くの近隣住民の方が参加しておられ、「おはようございます」と気持ちよく挨拶してくださいました。約1時間清掃作業をし、草引き、草の収集を担当しました。地域の人達にオリーブの家を知ってもらうためにも積極的に地域活動に参加したいと思います。(楠)



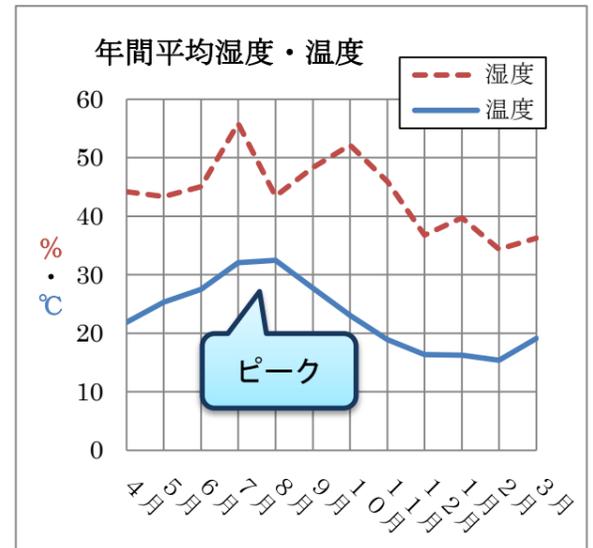
料理クラブ開始

平成30年度は、全員参加の“料理クラブ”を実施することとなりました。一か月に4人ずつなので、年1回しか参加していただけないが、皆さんに楽しみにしていただける行事の一つになればと思います。第一回は4月11日(水)に曾根公民館の調理室をお借りして行いました。旬の野菜を沢山使った献立で“桜もち”も手作りしました。和菓子屋さんで売っているのに引けを取らない出来栄え！美味しく楽しく頂きました。次月からのメンバーはこの「ワークホームだより」でお知らせしますので、ご確認ください。(西野)



温度・湿度の管理！傾向を掴む、そして対策を！

WHでは毎日、一日3回(9時、13時、16時)、各作業班で温度と湿度を記録に残しています。また、その記録をデータ化し、職員間で供覧できる形にしています。データ化することで一年間の傾向、過去との比較等を考察することができ、それを基に熱中症対策等の健康面について対策を立てることができています。クリーニング作業班の傾向としては、気温は4～6月から徐々に上昇し、8月には35℃近くまで上昇し、一年間でのピークを迎えます。湿度については、6～7月にピークを迎えます。高い時は湿度70%になる日もあります。WHでは、熱中症対策(特に5月～8月)として、水分補給の時間を設定する等、利用者さんにも意識してもらえるようにしています。早め早めの対策を立てる、その為には傾向を掴むことが重要だと思います。改めて日々の温湿度記録を残すことやデータ化することの重要性を感じています。(宮本)



★福田さん手術大成功！★

利用者の福田吉成さんが、4月4日に順心病院で2度目の直腸脱の手術を行いました。手術までの道のりは長く、前回の手術から少しずつ直腸脱が再発し、悪化していきました。それを職員が毎日観察し、小さな変化を見落とさず記録に残し、それを主治医の方に細かく伝える為に何度も通院を行い、そしてようやく4年ぶりの手術に至ることができました。本人も、2回目の手術という事もあり、イメージしやすくなった分、恐怖心が前回以上にあったと思いますが、手術中は恐怖心に打ち勝ち、静かに落ち着いておられました。今回の手術にあたっては、たくさんの課題がありました。しかし、本人、ご家族、WHの職員が1つになって福田吉成さんを応援していったからこそ課題を乗り越え成功することができたと思っています。今後もご家庭とWHの職員が一丸となって利用者さんを応援できる施設にしていきたいと強く感じました。(桂)

のじぎくスポーツ大会についてのお知らせ

5月26日(土)にのじぎくスポーツ大会・陸上競技種目が予定されています。WHからはメダル常連の小南さん、リベンジに誓う稲城さん、初出場の森崎さんが出場します。種目については、小南さんが1500m走、稲城さんが200m走、森崎さんが100m走となっています。県立三木総合防災公園陸上競技場で行われますので、時間のある方は3名を応援しに行っておいて下さい。また、今年はワークホーム高砂が5月19日に県立総合リハで実施される卓球種目の競技担当施設に当たっていますので、桂が実行委員として参加する予定です。大会を滞りなく終えることが出来るよう努めたいと思います。(桂)

ワークホーム・グループホーム職員親睦会

4月20日、ワークホーム・希望山荘日笠・オリーブの家の職員が集まる親睦会が行われました！場所は、かつめしで有名な『一平』さん。初の親睦会参加となる沼田さんへの質問タイムをはじめとして、普段は業務上あまり接点のない職員同士の親睦が深まる笑いの絶えない会となりました！今後の運営においてより良いチームワークを発揮するための足掛かりとして、とても良い機会になったと思います(^-^)(岡田)



月刊「ワークホームだより」 6月号

発行:平成 30年 5月 25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

保護者との連携

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

5月20日、本年度の保護者会総会が開催され平成30年度事業が決まりました。本年度も保護者会との連携を大切にしながら運営したいと思いますので、よろしくお願いします。

「保護者との連携」というテーマで二つのエピソードを紹介します。その一つは、グループホームに入居されている利用者のお母さんからの苦情です。苦情の内容は二つあり、一つは、「前回の帰省時（この利用者は2週間に1度のペースで帰省）に『髪が伸びているので散髪に連れて行ってほしい』と言ってあったのに、今回もまだ連れて行ってもらえていない」というもの。二つには、「帰省時いつも同じ服でボロボロになっているから新しい服を買ってください」というものでした。散髪については、一か月に一度のペースで連れて行っていましたが、今回は一か月半と少し間があいていました。職員の連絡ミスで対応が遅れていたのは事実でお母さんには謝りました。服については、まだボロボロという感じではなく、利用者が好んでその服を着て前回は今回も同じ服で帰宅されたようでした。服については、週末に利用者と一緒に買い物に行きタンス整理も一緒にしました。

二つ目のエピソードは、歯医者が極端に嫌いな利用者の例です。この利用者は、歯科検診で虫歯が見つかり、お母さんには歯医者に連れて行って欲しいとお願いしていました。しかし、幼い時から極端に歯医者嫌いでご家族も困っていて、ワークに対して連れて行ってほしいと要請がありました。一度目は職員と本人が加古川歯科センターに行き、2回目は本人と職員とお母さんの3人で行き、生まれてはじめて麻酔注射にも成功しました。お母さんも少し自信をつけたようで、次回からはお母さんだけで連れて行ってくれる予定です。

この二つの例は、保護者との連携を考えるうえでとても大切な視点を提供してくれています。私たちは、必要があるなら散髪にも歯医者にも買い物にも連れて行きます。しかし、事業所としての役割は何なのか、保護者としての役割は何なのかを常に意識しておきたいと思います。歯医者の方のように保護者の方が頑張っても難しく、職員が少し手伝うだけで上手く行く例は山ほどありますが、それは親御さんがこれまで頑張ってきたベースがあるからに他なりません。つまり、事業所は、保護者と利用者の関係を修復したり、新たな親子関係の構築をお手伝いしたりはできますが、何もかも丸抱えすることはできませんし、役割でもないと思っています。単なる例ではありますが、今回の「散髪」「買い物」「歯医者付き添い」をこうした視点で再点検してみたいと思いますし、保護者の方にも一度考えて欲しいと思います。

ワークと保護者の関係は、どちらか一方がどちらかを責めるのではなく、利用者のために互いが協力しあえる関係を作ることが必要です。そのためには、互いの情報を共有しあい理解しあうことが必要です。そうした関係が構築されてこそ、利用者への真の応援が可能となるのではないのでしょうか。親の頑張りをお子さんはしっかりと見ています。その頑張りをお子さんが下支えできる事業所運営をこれからも目指したいと思います。



6月の行事予定



- 6月 6日 (水) ・サークル活動・文化祭練習・料理クラブ
(料理クラブ参加者: 木澤、本田、増田康)
- 6月13日 (水) ・清掃・文化祭練習・工賃支給日
- 6月17日 (日) ・保護者会環境整備活動 (10:00~)
- 6月20日 (水) ・サークル活動・文化祭練習
- 6月27日 (水) ・職員会議・文化祭練習

※職員会議の日は16時終わりになります。



本年度初めての「GOTO 会議」を開催

5月21日(月)、GOTO 安杖社長、岡本さん、三原施設長、齋藤施設長、藤原事務局長、楠で今年度初めての会議を開催しました。最初に今年度の行事確認を行い、一泊旅行とぼんたんゆうあい文化祭については、平日に作業をお休みする事を確認しました。作業については、新商品導入に関して、今後スムーズに作業導入ができるよう話し合うとともに、委託料についても話をしました。また、新年度体制を踏まえたより良い工場作りの為の運営協力についても確認しました。今後も安定した作業の供給と工賃向上等について話し合いを定期的に持つこととしています。(楠)

平成 30 年度保護者会総会が開催されました



5月20日(日)、初夏を感じさせる晴天の中、ワークホーム高砂食堂において平成30年度保護者会総会が開催されました。新しく副会長補佐の役職が加わり2名のお父さん方が任命されました。事業報告・会計報告のあと、新役員承認・会計予算の承認・新年度の事業計画と会が進められていきました。昨年に引き続き“親子レクレーション”や“保護者見学会”のバス旅行等、内容も充実しています。今年度も、よろしくお願いします(西野)

今月の担当は藤本でした。

新商品挑戦中！

新年度を迎え、クリーニング作業に新しい商品が入ってきました。今回の商品は GOTO さんが新たに契約を結んだ老健施設の商品で、この施設専用の衣類です。今回の商品は種類が多く、利用者さんにとって難易度の高い作業でした。そこで種類を正確に見分ける為の治具や商品名の入った紙を用意しました。一つ目の注意点は種類を確実に分けることです。シャツだけでも9種類ととても多く、まず確実に仕分けを行ってから畳むようにしています。次の注意点は機械包装後に施設名、商品名、サイズを記入する事です。これは、とてもハードルが高く、柔らかいビニールに相手を読みやすい文字を書くことは非常に難しかったです。そこで施設名、商品名、サイズの入った紙を機械包装時に入れることにしました。半袖9種、長袖9種の紙を用意し、入れ物に縫い糸と同じ色のテープを張り、同色の洗濯バサミで止めることで紙が混在するのを防ぐ形にしました。種類が増えたことにより、在庫を置くスペースも新たに増設し、種類、サイズごとに分けて混在しないようにしています。これからは利用者さんが分かりやすく、働きやすい環境作りをしていきたいと思っています。(楠)



完成品

M

LL

L



新たに用意した衣装ケース
サイズごとに綺麗に整理！

近隣への配慮

～埃を出さないために～

クリーニング作業では、埃が建物の外に出て、近隣農地に入ってしまうという問題があり、3年前に掃除がしやすいようにと外周をコンクリート張りにし、フェンスに埃飛散防止の塩ビポリカーボネートの波板を設置しました。しかし予想以上に乾燥機の排熱温度が高く波板が劣化・硬化し手で握るだけでポロボロに割れてしまう程になってしまいました。そこで今回は、ガルバリウム製の波板を西・南面及び、ボイラー室横に設置しました。これからは地域の中で作業していくために近隣への配慮を忘れないようにしていきたいと思っています。(楠)



南面



西面

ワークホームでの通院支援

ワークホーム高砂では、ご家庭の通院が難しい利用者について、医療機関への通院付き添いを行っています。また、高血圧治療のための血圧管理や、投薬などについても、職員全員が協力して把握し、完治に向けた共有化を図っています。特にグループホームの利用者については歯科や内科に定期通院を行い、健康維持や改善のための支援を行っています。(松藤)



料理クラブ

5月2日(水)に料理クラブがあり、今回は稲城さん、森川さん、古川さん、そして初体験の中岸さんの4人が参加しました。メニューは、ささ身の春巻き・いなり寿司・旬野菜のサラダ・お味噌汁・いちご大福でした。具体的な料理作業としては春巻きの具材を包む、いなりあげにご飯をつめる、いちごを白あんと牛皮で包むなど手指を細やかに使う最高難度のメニューに全員一生懸命挑戦しました。先生には丁寧に手を添えて教えていただき、美味しい料理が出来上がりました！！(^^♪ (三輪)



火災報知器を増設

5月1日、クリーニング作業場に火災報知器を新たに一つ増設していただきました。増設する前までは報知器が鳴っても作業場には聞こえにくかったのですが、これにより、火災等の緊急事態を作業場でも的確に察知することができるようになりました。今回の増設により、WHでは食堂、作業場、洗濯場の計3台の火災報知器が作動することとなりました。今後とも防災対策に努めていきたいと思っています。(宮本)



地域清掃に参加しました。

5月13日(日)、オリーブの家周辺の溝掃除に竹林さん、今津さん、玉木さん、中右とで参加しました。地域の方々と一緒に水路や周辺の清掃を行いました。清掃後には掃除用具の洗浄と後片付けも地域の方々には教わりながら行いました。今後も環境美化や地域の方々との交流を深めていけたらと思っています。(中右)



のじぎくスポーツ大会(卓球)

5月19日(土)、神戸市西区にある県立障害者スポーツ交流館で第12回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会・一般卓球が行われました。ワークホームからは、桂が役員として参加しました。初めて卓球大会というものに携わり、参加されている方のレベルの高さ、細かな卓球のルール、参加されている方への様々な配慮に驚くことばかりでした。再来年は私が責任者を務めることになると思いますので、しっかり進行できるよう頑張りたいと思います。(桂)



障害福祉施設新任職員研修に参加して

5月23日、神戸市中央区にある社会福祉研修所にて開催された平成30年度障害福祉施設新任職員研修に「先輩職員発表者」として、参加させていただきました。当日は107名の参加者がおられ、福田さんの直腸脱の取り組みを中心に私自身がワークホームで学んだこと、喜びや悩みも含め、話をしました。また、「長く続けることの大事さ」「長く続ける中で転機となるチャンスがやってくる」…福田さんや



竹林さんの関わりを振り返りながら、新任職員の方々へエールを送らせてもらいました。私としても大変貴重な経験となりました。(宮本)

月刊「ワークホームだより」 7月号

発行:平成 30年6月21日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



さわやかな良い一日の始まり！

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

梅雨のうっとうしい日が続いていたある日の朝、その日は久しぶりに青空が広がりさわやかな良い一日になりそうな予感があった。マイナスイオンを少し体感しようと思い、出勤前にグループホーム希望山荘日笠に立ち寄った。グループホーム体験入居のMさんのことが気になっていた。というのも、前日に担当職員から「Mさんが足が痛いと言っているんです。園長、足をみていただけませんか」と言われ、確認すると大きな「魚の目」が左足裏に出来ていた。「保護者の方は知っていたのだろうか」と思いつつ、小さな不調を上手に伝えられないMさんの支援課題を改めて痛感したのだった。「おはようございます」と言いながら希望山荘に入っていくと、Mさんが笑顔で迎えてくれた。「足はどう？」と聞くと「痛いねん！」と言いつつも普通に歩いていたので、「明日、体験入居の反省会でお母さんに伝えるからね。相談して病院のことも考えるから」と話すと安心したように頷いたのだった。

「ところで、皆さんは元気かな？」とぐるりと他の入居者を見渡していると、世話人の稲城さんが、「園長、Kさんが随分前からトイレで頑張っているんですよ。どうやら、栓が詰まっているみたい」と教えてくれた。「またトイレの詰まりか!？」と稲城さんに聞くと、「いえいえ、本人の栓が詰まっているみたいです」「なるほど、便秘か!」と、そんな会話をしているとKさんが、「でえへんのや!」と曇った顔でトイレからでてきた。「いつから出てないの?」と聞いても、「昨日かな?一昨日かな?、わからん!」とのこと。「どれどれ」とお腹をさすってみると、けっこう張っている。これはきつそうだと思い冷蔵庫のスポーツ飲料を取りあえずコップ2杯飲んでもらい下腹部を数分マッサージした。すると「出そうや」とKさんが言うので、「頑張って出しておいで!」とトイレに行かせたが、心配だったのでゴム手袋を持って一緒にトイレに入り様子を見た。「う〜ん、う〜ん」とKさんは頑張るのだが、出そうにもない。肛門を確認すると便がそこまで出ている。少し排便をして固い便を掻き出し、もう一度座ってもらった。それでもまだ出にくいようだったので、もう一度排便を試みた。すると、Kさんが「でそうや!」と言い始めたので、再度便器に座ってもらうと「プ〜ん」と「良い臭い」がトイレ中に充満し始めた。「これで大丈夫だね!」と言って後は自力で排便してもらった。

時計を見ると8時20分。「ワークホームの朝の引継ぎ時間まであと10分しかない」稲城さんにKさんの状態を簡単に伝え、大急ぎでワークホームに出勤しなんとか引継ぎには間に合った。ちょうど引継ぎでKさんの便秘のことを他の職員に話し終えた時だった。Kさんが事務所に入ってきて「齋藤園長、ありがとうございました!!」と、それはそれはうれしそうな満面の笑顔をみせてくれた。きっと、稲城さんに「園長にちゃんとありがとう言いなさいよ」と促されてのことだと思ったが、「よかったね!」と、私も嬉しい気持ちになり、「さわやかな(?)、良い一日の始まりの予感」が当たったと密かに思ったのだった。

7月の行事予定

- 7月 4日(水) ・サークル活動・文化祭練習
- 7月 11日(水) ・料理クラブ・清掃・工賃支給日
(料理クラブ参加者:増田渚、吉田、森崎)
- 7月 15日(日) ・保護者会草引き・役員会
- 7月 18日(水) ・職員会議・作業班会議・文化祭練習
職員会議の日は15時40分終わりになります。
- 7月 19日(日) ・利用者健康診断
- 7月 25日(水) ・サークル活動



保護者会環境整備を実施

6月17日(日)に保護者会でワークホーム高砂周辺の環境整備を実施していただきました。当日は天候にも恵まれ、保護者さんと利用者さんを含め40名以上の方に参加して頂き、そのおかげで周辺がとてもスッキリしました。7月15日(日)には2回目の環境整備を予定していますので、今後も保護者さんと職員が協力し環境整備に力を入れていきたいと思っています。その後の役員会では、今後実施する予定の保護者研修会や親子レクリエーションについての打ち合わせが行われ、レクリエーションについてはバーベキュー大会を実施する方向で話し合いが進められています。(桂)



ばんたんゆうあい文化祭に出場決定!!

平成30年11月22日に行われる“ばんたんゆうあい文化祭”にワークホーム高砂の全利用者が出場することになりました。ワークホームとしては過去に出場経験が3回ありますが、全員参加というのは今回が初めてです。現在、水曜日のサークル時間等を活用しながら、公休班ごとに分かれてハンドベルと合唱曲の練習を交替で行っています。“全員で参加する意義”を日々伝えながら、利用者さん、職員共に練習に励んでいますので、練習参加についてのご協力をよろしくお願いいたします。なお、お願いの通知を別紙にて発出しています。(宮本)

今月の担当は中右祐企でした。

納豆班特集

“なっところちゃん”の製造～配達まで

現在、一週間に“大粒なっところちゃん”を延べ1200個～1600個、“小粒なっところちゃん”を延べ190個生産しています。この数を7人の利用者さん（吉田さん、増田康さん、玉木さん、浅野さん、今津香さん、田中さん、金谷さん）と一緒に生産から仕上げ・配達までこなしています。一昨年までは夏になると売上げが少し落ちていたのですが、昨年は新しく発酵機と業務用冷蔵庫に変わったためか（！？）季節関係なく購入していただけています。「しそ味が青山で売り切れていたけど、他はどこに置いてあるの？」とか「よく売り切れているから、定期的に配達してくれない」等、嬉しいお問い合わせを頂けるようになってきました。

現在の作業場所は、納豆の製造⇒仕上げ⇒配達準備まで一部屋で行っているため、これ以上の生産量上げるのが難しい状況です。そのため今年度は、いよいよ新しい納豆作業所の建設が進められる予定です。新納豆作業所を心待ちにしながら、一生懸命に納豆作りをされている利用者さんの様子をご紹介しますと思います。

1、納豆づくり…カップ入れ～被膜張り～発酵機入

一度に4キロの大豆を炊きます



「このカップは38gですね」カップの大きさを見ただけで一目瞭然！



きれいに並べて発酵機へ

2、発酵機だし…納豆菌の張り具合をチェックし、たれ・辛子入れ・蓋をし冷蔵庫へ



4、出荷準備・配達

午後には納豆作りがあるので、午前は多い日で8か所に配達をしています。東は加古川の北野から西は姫路の辻井や青山方面まで配達しています。



青山店のショーケースに並べます。「売れますように…」

3、熟成させた納豆にラベルを張って出来上がり！



落ち着いて、まっすぐ丁寧に…



※まとめ※

危険なことや、異物混入チェックなどの検品部分は職員が担いますが、ほとんどの工程を利用者さん一人一人が役割をもって行っています。片づけも分担して翌日に備えます。一日の終わりには「一日、お疲れさまでした。明日は、8キロ炊きます。よろしくお願ひします」と慰労と確認で締めくくります。（西野）



☆おもいっきり楽しみました！！☆



5月25日（金）、加古川運動公園陸上競技場で開催された「ばんたん親善運動会」に今津勇三さん、岡本さん、常峰さん、中岸さん、古川さん、吉田さんが参加しました。当日は快晴で夏のような気候でしたが、暑さに負けることなく、元気に玉入れや大玉おくりなど7つの競技に取り組みました。当日は、保護者の方の応援もあり、楽しいひと時を過ごすことができました。

また、翌日の26日（土）には、のじぎくスポーツ大会・陸上競技大会が県立三木総合防災陸上競技場で開催され、稲城さん（100m）、小南さん（1500m）、森崎さん（100m）の3名が出場しました。十分な練習があまりとれない中、コンディションを大会に合わせてみごと金メダルを稲城さんと小南さんが獲得しました。また森崎さんは初出場で4位入賞でしたが、「100m思いっきり走れて嬉しかった」と言っていたのが印象に残りました。（藤本）



6月の料理クラブ

6月6日、増田さん、木澤さん、本田さん、中右の4名で料理クラブに行ってきました。今回のメニューは「チキンミートロール、新玉ねぎとイカ（ささ身）と豆腐のサラダ、黒豆かん、玉ねぎとソーセージのスープ」でした。一生懸命にひき肉を捏ねていた増田さん、冷やし固まった黒豆かんを慎重に均等に切っていた本田さん、揚げ物を手際よくひっくり返していた木澤さん、皆さん真剣に、楽しんで料理をされていました。調理後には、自分たちで作った料理を美味しくいただきました。（中右）



ゴミ箱設置でよりきれいな事業所へ

ワークホームでは、駐車場に生ゴミを入れるゴミ箱を設置していますが、これまでは台風の度にゴミ箱が飛んでしまい駐車場にゴミが散乱するという問題がありました。このたび、台風シーズンを前に、どんなに風が吹いても飛ばない事を1番のテーマにして手作りのごみ箱を設置しました。少々サイズが大きくなってしまいましたが、外観は杉板にオイルステンで仕上げ、今風にしてみました。何か変わったものがあるなと思っただけでゴミ箱です。（楠）



日本セルフセンター研究大会に参加して

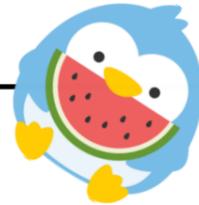
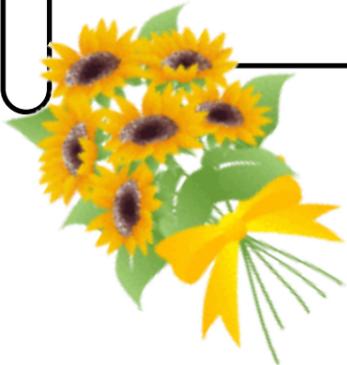
6月7日（木）、8日（金）の両日、東京都中野区の中野サンプラザで開催された日本セルフセンター研究大会に参加させていただきました。日本セルフセンターは、就労施設が集まり、働くことを軸に高工賃を目指すNPO法人です。今年度は報酬改定があり、就労A型では就労時間に応じた報酬、就労B型では月額平均工賃に応じた報酬、就労移行では就職後6か月以上定着した割合に応じた報酬とメリハリを意識した報酬体系となりました。今研究大会では、東京五輪、大阪万博招致を控え、より国際基準化が進む事を踏まえ、福祉事業所こそ経営を考えていかなば工賃を払えなくなるという考えのもと、色々な研修が行われました。特に食品業種では、HACCPの導入に遅れないように準備することなど具体的なアドバイスがありました。また分科会では、「クリーニング作業部会」に参加し、他の事業所さんから多くのアドバイスをいただきました。今回の大会に参加させてもらい、常に社会情勢、特に自分たちが作業として関わる分野の法制度等にはアンテナを高く持っていないといけないだけでなく、利用者さんに工賃を支払えない事態になりかねないと気持ちを引き締める事ができました。大変良い経験ができたので十分に活かしていきたいと思ひます。（楠）

月刊「ワークホームだより」8月号

発行:平成 30年 7月 23日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



記録的な豪雨への対応

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

7月5日から8日にかけて西日本を中心に降った雨は、数十年に一度という記録的な大雨とともに甚大な被害を各地にもたらしました。ワークホーム高砂の周辺でも避難勧告や避難指示が出て公共交通機関はマヒ状態で道路も渋滞して正に非常事態でした。幸いなことに利用者や職員には大きな被害はなく、またワークホーム高砂についても建物被害などは無く、ほっと胸をなでおろしました。多くの方から被害を心配する連絡をいただき、誠にありがとうございました。改めて私たちの事業所が保護者をはじめ、多くの関係者に支えられていることを実感した次第です。

ところで、ワークホーム高砂は昨年の9月に兵庫県の通知を参考にして「ワークホーム高砂非常災害対策計画」を策定していました。今回の大雨もその計画に基づいて対応しましたが、改めてそのポイントを確認しておきたいと思えます。

まずは、ワークホーム高砂の立地条件についてです。高砂市のハザードマップによればワークホームは氾濫による浸水の深さが0.5m未満の場所に位置しているとのこと、立地条件としては比較的安全な場所といえそうです。また、納豆班が作業する希望山荘日笠についても、「浸水・土砂災害指定区域」から外れており、ワークホームよりも安全な地域とのこと。

次に避難を開始するタイミングですが、ラジオやテレビなどで災害情報を入手し、「避難準備情報」が発令されたときに園長の判断で避難することとしています。また、避難場所と避難方法については、大きく通勤前と作業時間とに分けられますが、通勤前に「避難準備情報」等が発令された場合には、保護者の判断で原則として通勤させないこととしていますのでご協力をお願いします。

作業時間中に発令された場合には、クリーニング班は作業を中止して2階で待機し、納豆班は希望山荘にて待機することとしています。納豆班の待機解除は、避難準備情報等が解除され園長が安全を確認してから希望山荘からワークホームに戻ることを許可することとしています。また、退勤時間になっても「避難準備情報」等が解除されない場合は、保護者の迎えがなければ利用者を退勤させないこととしています。保護者の方には、お迎えを要請することがありますので、その際にはご協力をお願いします。

以上のような内容を非常災害計画として策定していますが、災害はマニュアルどおりにはいかないものです。今回の大雨を一つの教訓として、避難訓練も取り入れながら事前に対応できる心構えを身に付けておきたいと思えます。いよいよ8月に入ると台風シーズンに突入です。心を引き締めて利用者の安全対策について職員にも周知しておきたいと思えます。

利用者の安全を守る！～防犯カメラを設置～

夏がやってくるとあの忌まわしい事件が脳裏に浮かびます。相模原の津久井やまゆり園殺傷事件です。入所者19名が殺害され26名の入所者と職員が重軽傷を負いました。この事件を教訓に防犯対策が福祉事業所で進んでいます。ワークホーム高砂においても、7月17日から玄関等に防犯カメラを設置して利用者の安全対策を図ることとしましたので、ご理解をよろしくお願ひします。(齋藤)

玄関前の防犯カメラ



保護者会行事 環境整備ありがとうございました！

6月に続き、第2回目の保護者会による環境整備が、15日(日曜日)の猛暑の中行われました。駐車場のカラカラに乾いた地面にしっかりと根付いた草は手ごわく、背にはじわじわと太陽が照り付ける過酷な条件でした。藤野会長がホースで水を撒いてくださったり、南隣の田んぼから風が吹いてきたり、そんな中で楽しい会話が飛び交い笑い声も聞こえてきました。井戸端会議と言いますが、何気に昔のあかりの家発足秘話や、色々な面白いお話が伺えた貴重なひと時となりました。お暑い中、ありがとうございました。

(西野)



より良い職場作り ～行政立ち入り検査を受けてのGOTO会議～

平成30年6月28日にゴトウ・アズ・プランニング安杖社長、岡本工場長、齋藤施設長、三原施設長、藤原事務局長、楠の6名が出席し、今年度2回目の会議を持ちました。議題は、6月20日に行われた高砂市消防署の立ち入り検査の報告と指摘内容に対する是正処置の確認、6月25日に行われた高砂市による法定年次点検の報告でした。この法定年次点検は浄化槽の水質検査とボイラー施設のばい煙汚染の品質検査を行うもので、ワークホーム高砂は瀬戸内条例という環境法令の適用を受けているため水質には十分に配慮しています。今後もGOTOと良好な関係を継続し、お互い協力しあって直面している問題に取り組んでいきたいと思えます。(楠)

今月の担当は、岡田美咲でした。

クリーニング班特集!

～クリーニング作業の1週間に密着～

ワークホーム高砂にも本格的な暑さがやってきました! 真夏日には38度を超えるクリーニング作業場。今年もタオル班・たたみ班は1人1台の扇風機を、仕分け班は空調服を、シーツ班は冷やしおしぼりでの熱中症対策をこまめに行っています。例年以上の暑さが襲っていますが、怪我なく、熱中症なく、今年の夏を乗り切れるよう利用者・職員一同頑張っています! 前回の納豆作業に続いて、今回はクリーニング班の特集として、普段紹介できていない作業内容を作業班ごとに紹介します。(楠・岡田)

仕分け

以前は週6日フル稼働の仕分け班でしたが、現在は1週間トータルで3.5日稼働となっています。これを実現する為に1日単位の工程管理から1週間単位の工程管理にし作業の無駄を省きました。また利用者ができることを徐々に増やした結果、格段に作業効率が上がりました。

今は1年で一番暑く厳しい季節ですが、出来る限り働きやすい環境を整え利用者さんが最大のパフォーマンスを発揮できるようにしたいと思います。



シーツ班

普段は結束作業側にGOTO職員が付いて作業を行っていますが、水曜日はGOTO職員が不在のため、検品・結束作業を利用者さんのみで行っています。

水曜日のシーツ班の作業内容は保育所のお昼寝布団のシーツ(ベビーカバー)と、ピロケース(枕カバー)です。昨年度までの水曜日はベビーカバーだけでしたが、年度後半からはピロケースも処理するようになりました。GOTO職員がいない作業状況の中で利用者さんだけで全て責任を持って行っています。“汚れはないか!” “数は間違っていないか!” 商品に向かう顔はどの顔も真剣そのもので、たくましく、頼もしい「仕事人の顔」になってきました。



たたみ班・タオル班



たたみ班とタオル班では、『毎週土曜日にはタオル班を空っぽにして帰る』という大きな目標を立てて作業に取り組んでいます。目標達成のための努力は月曜日から始まります。明日効率よく作業するためには今日何の作業をするのが望ましいかを考え、商品に優先順位をつけていきます。これまでの出てきた商品をこなす“受け身”の作業から、工場全体の進捗のために今すべき作業は何か考える“積極的”な作業へと変わっています。



～ぼんたんゆうあい文化祭に向けて～



文化祭に向けて、土曜日公休班は『アメイジング・グレイス』、月曜日公休班は『聖者の行進』を練習しています。8時45分にベルを持って整列、音階順に音鳴らし。その後、2回続けて曲を通します。

第一の目標は「短い時間に、集中して、素早く行動」、第二の目標は「音を揃えて」。

各ご家庭の、朝のご協力に感謝いたします。

今後も本番に向けて、頑張っていきたいと思います。(三輪)



納豆班・クリーニング班の職員シェアリング開始!

現在、ワークホーム高砂では、(新)納豆作業場設立に先駆け、どの職員でも納豆作業・クリーニング作業に入れるよう、職員シェアリングが行われています。7月は西野主任・楠主任が数回に分けてシェアリング作業を行いました!

納豆班⇒クリーニング班へ

クリーニング作業に入るのは、ほぼ4年ぶり。以前のことを思い出しながら、新しいことは教えてもらいながら、クリーニング班の皆さんと楽しく作業をしています。実際に皆さんと仕事をしてみて実感したことは「一人一人の作業の幅が広がっている」「自主的な動きが出来る人が増えている」ということです。大きくは“4か所の作業班の中のシェアリング”午前中たたみ班で布団をたたんでいた方が、午後は仕分け班でせつせとシーツや包布を分けているのです。出来るようになるのは自信につながり「仕事人」の顔になっています。皆さんの成長を感じながら、一緒に頑張っています。(西野)



クリーニング班⇒納豆班へ

今月は納豆班で作業を行う機会が数回ありました。初めての作業で覚えることが山ほどありますが、新しい環境・新しい利用者さんとの関りがとても新鮮でした。納豆班ではクリーニング班には無い、繊細な衛生管理が必要とされます。また、自主事業ということで自分達が作っているという“仕事に対する誇り”を感じました。

また、クリーニング班を少し離れて見てみると1日の作業を客観的に見ることができ、新しい気付きも得ることができました。今後もこのような経験を職員間でどんどん行い、職場の活性化に繋がればと思います。

(楠)



年に一度の健康診断を実施!!

7月19日、35℃を超える猛暑日の中、健康診断を実施しました。年に一度の検診で緊張されていた方もいましたが、無事に全員終わることができました。昨年の様子と比較すると、みなさん“大人な対応”でスムーズに進めることができていたと思います。健康診断で身体の状態を把握し、より健康的に過ごせるようにしていきましょう! 今年はかなり暑さが続くと思われます。ご家庭の方でも熱中症対策をお願いします。

(宮本)



インターンシップフェアが行われました!

6月24日(日)神戸国際展示場にて、大学3年生向けのインターンシップフェアが開催されました。来場者数はなんと1000人超! 『あかりの家』のブースは嬉しい事に常に溢れんばかりの見学者の方々で埋め尽くされていました。

中には、ブース内に掲示してあるバンディオンセ加古川に所属する支援員のポスターを見て、「バンディオンセや...! えっ、ここで働いてるんですか?!」と、あかりの家に興味を示してくださった方も。1人でも多くの方がインターンシップに来て下さることを楽しみにしています。(岡田)



月刊「ワークホームだより」9月号

発行:平成 30年 8月 27日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



利用者の虐待報道について ～明日は我が身かも～

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

8月21日の神戸新聞東播版に加古川市の通所事業所で利用者に対する虐待があったとの記事が掲載された。詳しく事情を聞いてみると、7名の重い自閉症の利用者さんを3名の職員が引率しているときに一人の利用者さんが大声で叫び始めそれに連動するように他の利用者さんも行動異常を起こそうとしたそうです。こうした利用者の行動に対し、一人の職員が声を止めようと利用者さんに馬乗りになりタオルで口を押えたとのことでした。そして、この制止行動を行った職員自身が施設長に報告し、施設長が理事長と相談したうえで施設長から加古川市に虐待通報したとのことでした。

虐待の通報でよくあるのは、第三者や他の職員が「あれは虐待ではないか！」と行政や施設長に通報して発覚するケースですが、今回のケースは「よくある通報」とは少し違うように私には思えましたし、虐待認定はされたものの現場の難しさを反映した事例として私は受け止めました。

ワークでも先日こんなことがありました。朝の通所時のバタバタと忙しい時間帯に通所してきたばかりの自閉症の利用者さんがパート職員に向かって叩きに走るという行動ができました。通所してきたばかりで状況の把握も十分にできていないなか、いきなり走ってきて叩いたのでした。その行為は明らかに止めに入らなければ職員が怪我をすと思われ、私はとっさに「叩きに来たよ、逃げて！」と職員に叫びました。その時間帯はちょうど朝の引継ぎを行っている最中でもあったため複数の職員が事務所にあり、利用者についてはその職員たちが協力して別部屋に移動させ約15分後には落ち着いて作業に入ることができました。別部屋に移動させる途中、その利用者は大きな声で「あ～！あ～」と叫び自分の膝を叩いていました。ちょっと想像してほしいのですが、複数の職員が「あ～あ～」と大声で叫ぶ利用者さんを無理やりに移動させている情景は第三者から見ればどのように映るのでしょうか。正に虐待場面に出くわしたかのように見えるのではないかと思います。第三者が行政に通報するケースの中には、こうした事例も少なからず含まれていると私は思っています。幸いにもこの利用者については、これまでの取り組み経験から、職員が過度に反応せずある程度の時間を置いて丁寧に説明をすれば落ち着いて作業に入れることがわかっていました。声のトーンが下がり、こちらの話に頷けるまで待って対応し事なきを得ましたが、重い自閉症の人達を拒否することなく受け入れる事業所では、こうした事例は日常的でもあるのです。ですから、こうした行動への対応を間違えないためにも支援の専門性がより求められるのです。

あえて言わせてもらおうと、今回の新聞報道は、施設の健全さを表しているといえるでしょう。事の問題はしっかりと受け止めつつ隠蔽することなく正々堂々と施設長が通報したのですから。こうした問題が報道されるたびに、現場の困惑をひしひしと感ずる「明日は我が身かも」と思いながら新聞に目を通す施設長も多いのだろうと私は思います。



9月行事予定

- 9月 2日(日) ・クリーニング班の土曜公休班は振り替え作業日
- 9月 5日(水) ・サークル活動・文化祭練習・料理クラブ
料理クラブ参加者(梅原、福田、大野)
- 9月 9日(日)～10日(月) ・一泊旅行
- 9月12日(水) ・工賃支給日・文化祭練習・職員会議
職員会議の日は15時40分終わりになります。
- 9月19日(水) ・清掃日・文化祭練習
- 9月22日(土) ・納豆班、振り替え作業日
- 9月26日(水) ・サークル活動・文化祭練習
- 9月30日(日) ・保護者会主催「バーベキュー大会」

お知らせ

《一泊旅行に伴う作業振替日について》

- クリーニング班土曜公休の利用者は9月2日(日)を作業日としますので通常通り通所願います。
 - 納豆班…9月22日(土)を作業日としますので通常通り通所願います。
 - クリーニング班月曜公休の利用者については作業の振り替えはありません。
- ※ 今回の一泊旅行は公休日を使って実施しますので公休の振り替えはしません。

《平成30年度後期個別懇談会の実施方法について》

下半期の個別支援計画の見直しを含めた「平成30年度後期個別懇談会」を行う頃となってまいりました。

今回は、9月30日(日)に予定されている保護者会主催の「バーベキュー大会」に出席される方については、同日に懇談を持たせていただきたいと思っております。なお、ご参加されない方については別途ご案内をさせていただきますのでご周知いただきますようお願いいたします。

避難訓練を実施！！



8月22日、作業終了後に避難訓練を行いました。ワークホームでは年に2回消防訓練を行っており、避難訓練もその一環となっています。今回、洗濯場の火災を想定し、食堂からワークホーム駐車場に避難を行いました。みなさん、回数を重ねるごとに訓練の意識が高まってきており、火災報知器を鳴らす際の表情は真剣です！最近では大阪の地震や西日本豪雨等、関西地区にも大きな被害が出ています。訓練を通して、実際に災害が起こった場合に焦らずかつ迅速に対応できるようにしていきたいです。(宮本)

今月の担当は、西野でした。

まちどおしいなあ

一泊旅行… by 鳥取県

9月9日から10日に予定されている一泊旅行について、今年も、利用者さんから実行委員を数名募り、しおり作りや、宴会での司会準備などをお願いしています！しおり作りは、表紙から当日のタイムスケジュールの細かい部分まで利用者さんのみで作成してもらっています(^o^)普段あまり接点のない利用者さん同士が、「これどこに貼る？」
「ここでえんちゃうん！」
「ええやん！」等、和気あいあいとした空気中で、しおりも完成間近となっています(*^-^*) (岡田)



冊子表紙画

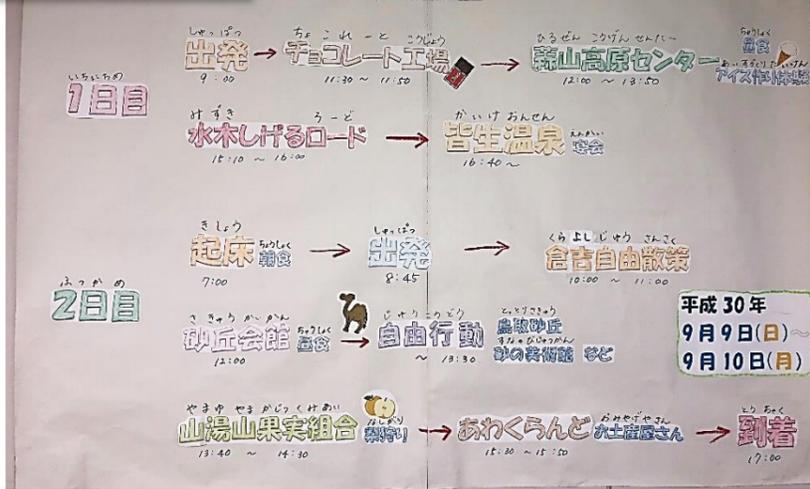
小林・増田(浩)・木澤・玉田



ルンルン(^.^)
早く行きたいなあ



今年も例年通り！
一泊旅行！



8月の料理クラブ



〈献立〉

ケーキ寿司・グリーンアスパラと
人参の胡麻和え・レタスとミニ
マトのスープ・フルーツポンチ

毎月一回の料理クラブ。今年度は全員が参加できるようにと毎回のメンバーが違います。長年、地域の曾根公民館の調理室をお借りし、ボランティアで教えてくださる先生とも顔なじみです。「今日は私の番や」と嬉しそう。普段したことのない「殻付きエビのワタヌキ」や「薄焼き卵を焼く」などを上手にこなす人。テキパキと洗い物や片づけをしてくれる人。ユーモアたっぷり場で盛り上げてくれる人。それぞれ持ち味のあるメンバーでの楽しいひと時でした。

写真にあるように彩り綺麗で可愛いく出来上がり、美味しくいただきました。

「ごちそうさまでした」



早くも大学三年生の就活始まる?! ~インターンシップの受け入れ~

働く人口が不足していると産業界が悲鳴をあげています。その悲鳴は福祉現場では深刻で、「募集しても集まらない」状況が続いています。そんな中、再来年の卒業生に照準をあてたインターンシップ(学生の職場体験実習)の受け入れを法人あかりの家は積極的に行っています。これまで8月に3回(11名)の受け入れをワークホーム高砂としても行いました。参加する学生に「福祉関係に就職するの?」と問うと、「いえ、まだ決めていません。来週はサービス関係の会社でインターンシップをします」などと答えられたりします。「これが現実か!」と思いながら、せつせとワークホーム高砂の魅力を伝える日々です。(施設長)

学ぶ

「てんかん」の奥深さを知った研修 ~第41回てんかん基礎講座~

7月24日(火)・25日(水)の2日間、大阪商工会議所にて『てんかん基礎講座』が行われました。基礎講座では、てんかんはどのような病気なのか?ということはもちろん、介助方法や、薬物・外科療法による治療の種類、合併する精神障害、見誤りがちな病気…など、あらゆる分野でのてんかんの基本の“き”を学ばせていただきました。今回の講座で、てんかんという病気の奥深さを知り、講義前に比べて、てんかんへの見方が180度変わりました。貴重な体験をすることが出来て良かったと思います。(岡田)

行動援護の専門知識と技術を学ぶ ~行動援護従事者養成研修~

先月から3回にわたって行われた行動援護従事者養成研修に私と三輪支援員で参加させていただきました。強度行動障害の特徴をおさえて、また個々人の障害特性をインテーク(情報収集)しアセスメントすることで、どのような対応をすればご本人にとって理解できるのかを学習することができました。WH及びGHの利用者に対応するのはもちろん、地域社会にも繋げていければと感じました。(藤本)

8月6日から9日の4日間、NPO法人姫路心身障害市民懇話会が主催する行動援護従業者養成研修に参加させて頂きました。今回の研修のテーマは主に強度行動障害の方を対象とした基本的理解や日中活動での配慮、危機対応のお話など分かりやすく教えて頂きました。その中で印象的だったのは否定的(叱る)な言葉ではなく、肯定的(認める)な言葉を伝えることが日常での会話の中で大事であるとお話がありました。肯定的に接することによって、しなくてもすむ関係や環境に繋がるのではないかと思います。今後も支援をしていく上で今回の研修で学んだことを活かしていきたいと思えます。(中右)

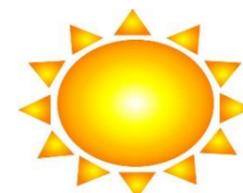
あかりの家 厨房職員の協力を得て

~なっとこちゃん「高砂市へ商品紹介」に行く~

高砂市には国等による法律に基づき、障がい者就労施設などが提供する物品等の情報を収集し、各部署において優先調達の可能性について十分に検討し、障がい者就労施設からの物品などの調達の推進を図るという方針があります。ワークホームの手作り納豆「なっとこちゃん」を保育園の給食に使用してもらおうと施設長、利用者の今津香苗さん、吉田さん、三輪の4人で商品紹介に行きました。あかりの家厨房のご協力を頂き、試食用の“小粒なっとこちゃん入りハンバーグ”と“栄養満点なっとこちゃん入り卵焼き”作っていただきました。栄養士・調理師さんや各保育園・こども園の調理師さん達12名に試食していただき「美味しい」という嬉しい言葉をいただき、納豆メニューは大好評。今後、保育園・こども園の給食に使用していただける方向で話が進んでいます。沢山の方に食べていただけるよう販売促進も頑張っています。(三輪)



小粒なっとこちゃん



酷暑!!

今年も暑かった!! いやもうまだまだ暑い(;^ω^)

この尋常ではない夏。熱中症対策の甲斐あってか不調を訴える方はほとんどなかったけれど、エアコンが効かない! 仕分け班の着替えコンテナはあまりの暑さに冷えず、納豆作業所のエアコンは長きにわたり働いたために冷えなくなっていました。仕分け班と納豆班には容量の大きなエアコンを購入! 仕分け班が使っていたエアコンは希望山荘の調理場にお引越し、、、一件落着きなのでした。



月刊「ワークホームだより」10月号

発行:平成 30年 9月25日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

利用者の成長が社会啓発を進める… ～一泊旅行を振り返って！～



ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

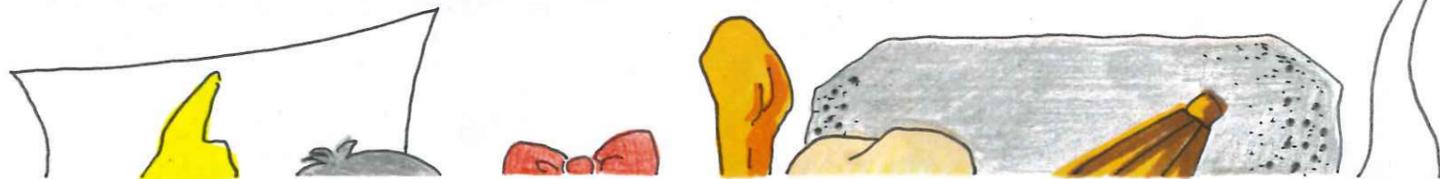
利用者と職員総勢50名の一泊旅行を9月9日、10日に実施しました。実施に当たりわざわざ見送りに来てくださった保護者の方や「バスで飲んでください」とジュースやお茶をくださったGOTOさんに心から感謝申し上げたいと思います。

さて、今回の一泊旅行は鳥取方面でしたが、途中の蒜山ではアイスクリーム作りを体験し、米子では「妖怪」が並ぶ「水木しげるロード」に行きました。皆生温泉の旅館では恒例の宴会を行い、二日目には倉吉の街を少雨の中で散策し、大雨に濡れながらの「鳥取砂丘」や雨で「皮むき体験」となった「梨狩り」など、多くの体験ができた実り多い一泊旅行でした。

私自身が今回の旅行で最も印象に残ったのは、宴会の最後に総勢50名で舞台上に立ち、旅館の方を前に披露した合唱曲「世界にひとつだけの花」が終わった時の旅館の方の感想を聞いた時でした。実は、11月に出演を予定している「ばんたんゆうあい文化祭」では、利用者全員で楽曲を披露することにしていて、6月から作業時間の合間に練習を重ねて来ます。練習開始の当初から「一泊旅行の宴会では、旅館の方を前に合唱曲を披露する」という目標を掲げて取り組み、文化祭の予行演習のつもりで今回を位置付けていました。

合唱曲が終わり、私が旅館の仲居さんに「いかがだったでしょうか？」と問うと、リーダー格の方が、「感動しました。障害の方々がこんなに出来るなんて…」と感動で涙目になり、その横で並んでいた数名の仲居さんたちも頷いておられました。利用者や他の職員が部屋に帰った後、片づけを始めていた旅館の方に「ありがとうございました。お付き合いさせて申し訳なかったですね」とお声をかけると、「いえいえ、私達の方こそ心が洗われました。ありがとうございました」と嬉しいお返事をいただきました。翌朝、朝食で同じ宴会場の部屋に行くと昨夜の仲居さん達が出て、「みなさん行儀がいいし、園長先生は利用者のお父さんのような感じがしますね！」とまで言われ、「さすが、お上手！」と笑いながら美味しい朝食をいただいたのでした。そして、支払いで立ち寄ったフロントでも「先生、昨夜は大変盛り上がったそうですね。仲居が勉強になったと言っていましたよ」とフロントの方からも嬉しいお話を聞かせていただきました。

今回の一泊旅行は、出発前から大雨が予想され、旅行中も行く先々で「雨」を心配しましたが、旅館の方々のあたたかいおもてなしをはじめ、職員の頑張り、そして、何よりも成長した利用者さん一人ひとりが「雨」を吹き飛ばしてくれ、最後に立ち寄った道の駅「あわくらんど」では晴れ間も見られました。障害者理解の社会啓発は、利用者ひとり一人の成長過程の中で進むことを実感した今回の一泊旅行は、私の長い福祉人生のなかでも強く印象に残る行事となりました。



10月行事予定

10月 3日(水) ・サークル活動・文化祭練習・料理クラブ(参加者:木本、常峰、田中)

10月10日(水) ・清掃日・文化祭練習・工賃支給日

10月17日(水) ・文化祭練習・職員会議 ※15時40分終わりになります。

10月24日(水) ・サークル活動・文化祭練習

10月28日(日) 父親の会/保護者役員会

10月31日(水) ・サークル活動・文化祭練習

9月の料理クラブ



9月の料理クラブは、梅原さんと福田さん、大野さんの3名でした。当日のメニューはコロッケ・玉ねぎとささみのサラダ・鯖缶の具だくさん味噌汁・かぼちゃのチーズようかんで、コロッケを揚げている梅原さん、大匙スプーンで量りながらドレッシングを作っている大野さん、しいたけを半分に切ったり、野菜を炒めている福田さん、三人共に料理作りに奮闘していました。作った料理はとてもおいしく、普段味わったことのないようかんも皆さんおいしく平らげていました。



(中右)

「障がい者の働く場 パワーアップフォーラム」に参加しました！！

8月24日、大阪府にあるマイドームおおさかにて行われたパワーアップフォーラムに齋藤施設長、三輪支援員、宮本の3名で参加しました。“食”で広がる障がい者の仕事づくりをテーマとした食品事業を行っている施設の方々の講演を聞き、昼食は大試食会と題し、各施設でつくられている商品をいただきました。どれも美味しくかなり満腹((笑)様々なお話を聞く中で印象強かったのが食品事業となると売上向上や販路拡大に興味が行くところですが、どの施設も根底にあるのは利用者支援の視点でした。どうすれば利用者さんを成長させることができるか、やはりその思いが大事なのだと再認識させられました。例えば、「レベルの違いはあっても、まずは集団(全員)でやってみる」「機械を導入し、誰でも職人級の仕事ができるようにする」等、ワークホームとしても参考となる内容でした。

(宮本)

播但地区研修会

9月19日、高砂市青年の家で行われた播但地区研修会に三輪支援員と岡田で参加させていただきました。今回の『心の元気づくりとレクリエーション』というテーマのもと、グループゲームや製作活動などを行いました。研修を通してレクへの知識を深めるとともに他施設の方々と笑いの絶えない楽しい1日となりました。

(岡田)



今月の担当は、三輪でした。

100

待ちにまった一泊旅行。
元気に挨拶して、出発!

昼食

アイスクリーム作り!!

みんな、オッケー??

Gr o o o o ~ d!!!



雨の中、バスはチョコレート工場



小雨の
水木しげるロード



ホテルで宴会

ワークホーム高砂

鳥取一泊旅行

平成30年9月9・10日



ほっと
一息。

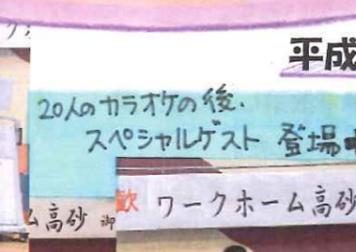
さあ
夕食。



みんな浴槽で♡



宴会、始まるよ!



20人のカラオケの後、
スペシャルゲスト 登場!

高砂 秋 ワークホーム高砂



音楽班対抗ビンゴ。
そして、いよいよ
全員合唱



200

朝食前に記念撮影。
雨が少し、心配です..

もりもり 朝食。



倉吉町並 から、昼食...

砂丘で写真。あ! 雨だ!



日程:

9月9日 ヒルゼンミルク
ワークホーム高砂 → チョコレート工場
→ 蒜山高原センター・昼食・アイス作り
→ 水木しげるロード = 菅生温泉

9月10日 ホテル → 白壁土蔵群 → 鳥取砂丘
→ 梨体験 → あわくらんび
→ ワークホーム高砂



秋 ワークホーム高砂 御一行様 迎



秋をむく



梨農園へ。
りんごを、おいで食べ



おいしい
おいしい
おいしい
おいしい

デリシャス。



月刊「ワークホームだより」 11月号

発行:平成 30年 10月 24日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-fakasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

平成31年度厚労省予算概算要求とワークホーム高砂の今後

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

平成31年度の予算編成が各省庁で進められています。厚生労働省の概算要求も先月発表され、財務省との折衝を経て年末には予算案が固まり、来年1月からの国会審議を経て通常であれば来年3月末には国としての予算が決定される見込みです。

ワークホーム高砂は、「障害者総合支援法」という法律に基づく事業所なので、概算要求の中に今後の事業所経営のヒントがあります。平成31年度厚労省概算要求のうち、「障害者総合施策の推進」は651億円で昨年よりも8億円増の要求となっています。報酬に関係する予算はこの中に入っています。また、主要事項の整理では、9項目の第7番目に「障害者支援の総合的な推進」という項目があり、その中にワークホームに関係する「障害者への就労支援の推進」197億円が要求額として示されています。昨年度と比較すると6億円の上乗せ要求ですが、満額査定されるかどうかは、今後の厚労省と財務省とのやり取りの中で決まります。

ところで、重要なことはその内容であり、予算要求項目の関係キーワードの中に厚労省の考え方を見ることができます。例えば、「障害者の雇用の質の向上」「法定雇用率の引き上げに対応した中小企業支援」「精神障害、発達障害、難病患者等の就労支援の強化」「就労支援事業等で働く障害者への支援」「農福連携による障害者の就農促進」などです。その中でもワークホームに直接関係するのが「就労支援事業等で働く障害者への支援」であり、「① 工賃向上等のための取組の推進」に2.9億円、「② 障害者就業・生活支援センターによる働く障害者への生活面の支援などの推進」に8.1億円、「③ 工賃等向上に向けた全国的支援体制の構築」に12百万円を要求しています。ちなみに、「農福連携による障害者の就農促進」には、2.7億円を計上しています。これら要求額を見てみると、障害者の工賃向上と就業・生活支援センターなど働くベースを整えることを重視する厚労省の考え方が垣間見えますし、また、就農人口の減少という課題に障害者を絡めた政策を今後も推し進めたいとの意気込みが見えてきます。

こうした概算要求の内容をみながら、ワークの今後について考えてみると、大事なことは厚労省が何を重点的に推進しようとしているのかという視点からではなく、利用者や家族にとって今現実的に何が課題となっているのかということ、そして、ワークホームの役割との関係で何を推進していくべきなのか、その課題解決の方向の中に厚労省の政策を使うことができるのかを考える視点だと思います。私としては、利用者の自立した地域生活を高砂市周辺で推進することが必要だと考えていますし、「経済的な自立」と親元を離れて暮らす「生活自立」を推進し支援することが利用者・保護者のニーズでもありワークホームの役割だと考えています。そのためには、まずは工賃向上の取り組みと、グループホームをベースとした地域生活の支援に取り組みたいと考えています。経済的自立のために「工賃目標月額6万円」を掲げ、GOTOとの連携を進めながら、納豆販路の拡大にも大いに取り組みたいと考えています。そして、ワークホームの利用者が親元を離れて暮らし、生活の支援を丁寧に行う質の高いグループホームの拡充を職員の育成を図りながら進めていきたいと考えています。

幸いなことに国の施策も大きくは変わらないようです。今後は、国や県の補助財源も積極的に位置づけながら、安定した財源と安定した職員をベースに夢のある事業展開を図りたいと考えています。

11月の予定

11月7日(水)

フラッシング指導
文化祭練習(16:30 終了)

11月14日(水)

料理クラブ
(岡本さん、大西さん、浅野さん、今津ゆさん)
文化祭練習(16:30 終了)

11月17日(土)

工賃支給日
保護者会研修会

11月21日(水)

文化祭練習(16:30 終了)
文化祭の衣装を持ってきてください

11月22日(木)

ぼんたんゆうあい文化祭
(8:30 ワークホーム高砂集合)

11月25日(日)

グループホーム懇談会・会食会

11月28日(水)

職員会議(15:00 終了)

(株)ゴトウ・アズ・プランニング 第二十八期 経営計画発表会

10月19日に姫路商工会議所で開催されたゴトウさんの第28期の経営計画発表会に齋藤施設長と楠の2名で参加させていただきました。ゴトウさんは6年前に豊富に本社を移転され、業務集約を行っています。27期決算も設定目標に到達されており、着実に業績を伸ばしているという印象を受けました。業績が伸びているには理由があり、徹底したムダの撤去、セクション別の業務改善、徹底したPDCAサイクルによる改善の検証、再改善といった目標達成のためのプロセスが確立しています。業績を伸ばすには、現状に満足することなく常に自分たちの課題を自分たちで探し取り組む。その姿勢は、私たちワークホーム職員が最も見習うべき点ではないかと思いました。今後もゴトウさんとWin-Winの関係で協力していけたらと思います。(楠)

今月の料理クラブ

木本さん、田中さん、常峰さんと三輪で参加した料理クラブ。今回の献立は、クリームシチュー・ゆで卵とツナとスライスチーズのサラダ・牛肉の野菜巻き焼き・おはぎ、そしてお祭りの季節の定番「鯖寿司」でした。

おはぎ作りと牛肉の野菜巻きに挑戦した田中さんと常峰さん。もち米や薄い牛肉の扱いに最初は四苦八苦しましたが4個5個と続けて作るうちに上達し、先生も「あっという間にうまくなった！」とびっくりするほど。サラダ、クリームシチュー、鯖寿司の切り分けを担当した木本さんは、慣れた手つきで料理を仕上げました。「今まで食べた中で、一番おいしい鯖寿司！」と皆さんお腹一杯いただきました。(三輪)

今月の担当は楠でした

新たな挑戦!!

～次なるステージへの第一歩～

クリーニング班

作業リーダー制を導入

クリーニング班では、10月から作業リーダー制を導入しています。作業が始まる前にリーダーさんが呼びかけ、整列、点呼を行い作業へと向かいます。休憩も同様にリーダーさんが「休憩に行きます」と声をかけ、整列後に利用者さんだけで休憩に行きます。もちろん休憩時間の時間管理もリーダーさんのお仕事です。まだまだ迷いながらのリーダーさんもありますが、このリーダー制をとって、「人に伝える力」「人の指示を聴く集団活動の力」など現在の作業では培いにくい力をつけて少しでも自立に繋がっていけばと思っています。(楠)



タオル班個人生産表を新調

タオル班に個人作業スペースを導入して2年が経ちました。毎日自分がこなした作業量を確認することで今日はいよくなりました。昨日は5個だったから今日は6個できるようにがんばろう!という風に目標を持って作業に取り組めるようになりました。その結果、昨年の閑散期に開始した、月曜日のタオル作業終日休業を夏の繁忙期も実施することができました。繁忙期前には月曜日に作業しないで大丈夫だろうか?と心配しましたが、少しタオルはたまり気味になったもの、いらぬ心配で今はタオルの山はありません。そんな中、みんなの作業量を記録し続けたボードが老朽化したので、岡田支援員が新調してくれました。今後も綺麗になったボードに達成シールをどんどん貼って行って欲しいと思います。(楠)



納豆班

高砂市立保育園・こども園へ納豆納入

ワークホームだより8月号でご紹介しました“なっとこちゃん「高砂市へ商品紹介」に行く”の後日談になります。10月2日(火)に初めて高砂市内の保育園・こども園9施設に小粒納豆を納めさせていただきました。その日の献立は“納豆ハンバーグ”。一人当たり10g×人数分の目安なので、納品量が2kg～480gと9園全て違い、容器選びから生産工程まで納入日から逆算して決めました。そして一番のテーマは当日の納入でした。朝の8時半から9時過ぎまでに9園に配達しなくてはならないため、事前に各園を地図等で確認。当日は二人体制の3チームが一斉に出発!無事に納入することができました。準備段階から緊張の連続でしたが「美味しかったよ」との言葉も頂きました。少しずつ販路が広がっています。(西野)



ようかあさぎ 八鹿浅黄で納豆を作ってみた!!

タイトルには「作ってみた!」ですが、正確には「作らせていただいた」です。先日、ヤマダストア商品部の部長さんから「養父で作られている“八鹿浅黄(ようかあさぎ)”という青大豆があるんですが、納豆にしてももらえませんか?」のお話を頂き、『産地の違う大豆でも作ってみたい』との想いもあったので、ほぼ即答でお返事。青大豆“八鹿浅黄”は少し青みのかかった可愛いお豆ですが、一晩浸水すると!なんと、うちの北海道産大豆より1.5倍はある特大大豆が驚きました。一応、大粒納豆“なっとこちゃん”と同じ作り方で、一回で大成功!!早速、試食していただき「わさびが合うなあ」と好印象でした。これから、商品として販売するかは未定ですが、色々なお豆の納豆づくりに挑戦していきたいと思っています。(西野)



こんなことしてます。～グループホーム編～

今回はグループホームの休日を紹介していきます。

まずは、台風直撃で外出できない日です。みんなで夕食のカレー作りです。(オリーブの家)



おいて!おいて!



切って!切って!



炒めて!炒めて!



完成!

続きましては、避難訓練!

10月7日に高砂消防本部にお越しいただき実施しました。

もしもに備えてみんな真剣!!「火事だー!!」の声で2階の非常階段を使用し、近くの公園に避難。



オリーブの様子

今日はお祭り!みんなでお出かけです。



希望山荘の様子

水消火器で消火訓練



おまけ

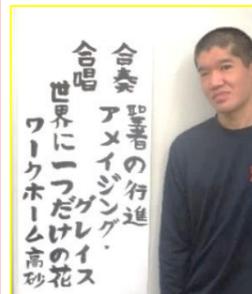
オリーブの家のオリーブが実り、オリーブの酢漬けが完成しました。



いよいよラストスパート!! ～本番1ヵ月前～

11月22日(木)に開催のぼんたんゆうあい文化祭まで1ヵ月となりました。

今までは各パートで練習してきましたが、今月より全体でのフォーメーション、とおし練習を開始しています。水曜日は駐車場に舞台と同寸法の線を引き、本番さながらに練習しています。また、作業の合間に指揮とソロパートの練習も毎日行っています。ここにきてようやく全体のまとまりが出てきていよいよという感じになっています。残り一ヵ月、職員・利用者一丸となり100%を目指して頑張りたいと思っています。お時間が許される方は是非、ご覧ください。



演目:書、大野



指揮、ソロパートの個別練習



全体練習の風景

お知らせ

日時:平成30年11月22日木曜日
場所:姫路市文化ホール 大ホール
出演時間:14時頃の予定です。

ヨーイヤサ!

月刊「ワークホームだより」 12月号

発行:平成 30年 11月 23日 発行者:ワークホーム高砂 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331

TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



「疥癬」への対応

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己



10月16日19時40分頃、保護者の方から「息子が疥癬に感染しているとの診断をうけた」と連絡をいただいた。「これは大変、もしも感染源がワークホーム高砂なら他の利用者さんにも広がっているのではないかと瞬時に思った。翌日、直ぐに他の利用者さんに痒みや発疹などの症状が出ていないかを職員が観察し、取りあえず同様の症状を訴える利用者がいないことを把握し、囑託医師の井野先生に電話を入れて対応指示を仰いだ。そして念のため、県健康福祉事務所と高砂市地域障害福祉課にも連絡を入れ、広がるようであれば再度連絡してほしいとの指示を得た。幸い他の利用者からはそれを疑わせる症状は出なかったが、潜伏期間が2~3か月と長いことから、これから症状がでることも考えられるため、注意喚起文書を保護者あてに通知して家での観察と対応について協力をお願いした。

病院寝具を扱うクリーニング事業は、感染症など「目に見えない危険」と隣り合わせである。特に病院や老人ホームなどのリネンを扱う当工場では、一般家庭では稀な感染源が入り込みやすいため利用者の安全確保が大きな課題である。目には見えないので感染源を突き止めることは難しいが、対応の基本は洗濯物が原因であるとの前提で安全対策を立てることが大事だと考えている。

ご存知のようにワークホーム高砂のクリーニング事業は、ゴトウ・アズ・プランニング（以下「GOTO」）との連携で成り立っている。したがって感染症対策もGOTOの協力なしには実効性が担保されないため、今回のことについては安杖社長や岡本工場長とも共有し感染症対策を練り直している（詳細は、楠主任の別記事を参照いただきたい）。しかし、今回新たに導入するランドリーバックは、ワークホーム高砂とGOTOだけではなく、洗濯物を出すお客さんの協力なしには本当の実効性を伴わない。大切なことは、お客さんを含めて関係者が意識を高め安全確保に努めることである。

疥癬の診断から1か月以上が経過した11月16日、保護者の方から利用者の疥癬が完治した旨のお話をいただいた。この間のご家族の大変さはいかほどであったろうかと心が痛む。元気に通所し始めた利用者の姿を見ながら、まだまだ潜伏期間中であるとの危機意識を持ち続け、安全と安心を追及し続けなければならないと心に強く刻んでいる。

クリーニング仕分け作業の見直しに取り組む！

利用者さん1名が「疥癬」に感染したことを受け、感染症予防の観点から作業手順をGOTOさんと協力しながら見直しています。現在は全ての車両にオゾンガス発生装置を取り付け、運搬中の車内で一次消毒を行った後、それを仕分けしています。この方法では利用者が汚染物に直接触れる可能性があるため、今回新たに水溶性ランドリーバックの使用を決定し、運搬車両から直接「連洗機」で洗い、その後に仕分けする方法へと変更することにしました。今回新たに導入する水溶性ランドリーバックは、感染の恐れのある寝具等を入れる袋で、そのまま洗濯をすることができます。使い方は、まず汚染された寝具類を医療機関等が責任を持って袋に入れ専用のリボンで口を縛り、専用の汚染物回収袋に入れて運搬します。ワークホームに入ってきた汚染物改修袋は仕分け作業をすることなく連洗機に投入します。すると口を縛っていたリボンが連洗機の中で溶けて漂白消毒液で浸され薬液消毒され、その後高温のお湯で洗濯し、感染原因物質を完全に死滅させます。利用者の仕分け作業はその後に行いますので、格段に安全性が高まるものと考えています。今後もこうした作業手順の見直しを進めていながら、利用者の安全確保に努めていきたいと考えています。

(主任支援員 クリーニング師 楠英充)

12月の予定



12月 2日(日)
12月 5日(水)
12月 12日(水)

・工場大掃除
・サークル活動
・工賃支給日・清掃・料理クラブ
料理クラブ参加者(今津香、松永、棒谷)

12月 16日(日)
12月 19日(水)

・クリスマス会
・職員会議・作業班会議

職員会議の日は 15:00 終わりにいたします。

12月 26日(水)
12月 29日(土)
12月 30日(日)

・サークル活動
・ワークホーム高砂、作業終了日

・ワークホーム高砂、休業

年始は 1月 4日(金)の開始となります。



保護者研修会 社会福祉法人陽気会へ見学

今年度の保護者研修会は17日(土)に神戸市北区にある「社会福祉法人陽気会」での見学会として実施されました。社会福祉法人陽気会は1958年に精神薄弱児施設おかげ学園として創設されてから60年続く事業所で、今では幅広く事業展開され「障害児入所施設」「児童発達支援センター」「放課後等デイサービス」の児童に加え、障害者支援施設を3か所。共同生活援助事業所を10か所。通所では就労継続B型2か所に生活介護等々359名の方々が利用されています。

本館は開設1年半のとてもきれいな建物で、大きなホールでお話を伺いました。あまりに広くて本館のみの見学でしたが、紅葉の綺麗な山のふもとで、そばを川が流れるうらやましい環境でした。理念に「明るくて清潔な環境」「家庭的で楽しい雰囲気」「誰もが暮らしたくなる」と掲げたとおりの気持ちの良い印象を強く感じました。

(西野)



新しい冬用作業着できました！

今回のユニフォームは温かく元気がみなぎる赤色にしました。2年前から使っていたトレーナーはみんなの作業の頑張りによってたくさん汗をかいた分、くたびれてしまったので新しいのに替えました。4年前から統一のユニフォームを作成して、3色のパーカーからはじまり、黒地にオレンジの文字でWorkHomeと書いたトレーナー、そして今回のトレーナーが3代目になりました。今年からはこの3代目で作業頑張っていきます。また今年には作業だけでなく、文化祭の移動の際にも全員統一のウェアとして使用します。(藤本)



今月の担当は中右でした



待ちに待った文化祭！！ ～全員で素敵な音色を届けました～



11月22日(木)、姫路市文化センターにて行われた「ばんたん・ゆうあい文化祭」に52名全員で参加しました。本番に向けて、今年の5月から毎日練習に取り組んできました。演目は「聖者の行進」「アメイジンググレイス」のハンドベル演奏、「世界に一つだけの花」の合唱。練習を開始した当初は音を鳴らすことすら難しく、歌を歌ってもバラバラになってしまう状態でした。約半年間の練習の中で苦手なところは繰り返し練習し、一つ一つ課題をクリアしていきました。演奏のスキルもさることながら、練習を通して“みんなで何かをする”力が身についたのだと思います。本番当日、衣装である白シャツと黒ズボンに着替え、男性は髪形をセットし、女性は化粧をして見栄えもバッチリ決まり出発。会場では他施設の舞台を見ながら手拍子をしたり、一緒に歌ったりとみなさん楽しんでおられました。そして、ついにワークホームの出番がやってきました。舞台袖では緊張した方もいましたが、ステージの幕が上がると、みなさん練習の成果を出し切り、今までで一番の舞台となりました。集団行動が苦手な方もしっかりと舞台に立つことができ、最後の利用者代表挨拶も大きな声で伝えることができました。今回、全員で参加できたことは利用者さん、職員共に成長できた証しだったと思います。保護者の皆様におきましても色々な場面でご協力いただき、当日、応援に来て下さった方もおられ、本当にありがとうございました。(宮本)



五色精光園祭で納豆販売しました！！

11月4日(日)、淡路島五色精光園祭の納豆販売に参加しました。利用者の増田康孝さん、金谷さん、玉木さんと中右、三輪の5人で朝8時にワークホーム高砂を出発。お天気に恵まれてポカポカ陽気の中、お祭りは大盛況でした。「なっとこちゃんを待っていたよ！」という嬉しい言葉をいただき、小粒なっとこちゃんも新顔商品デビューしました。持って行った160個以上のなっとこちゃんが完売し、「なっとこちゃんいかがですか」と一生懸命声を出してくれた利用者さんも、うれしいなあと笑顔いっぱいでした。(三輪)



☆ブラッシング指導☆

去る11月7日(水)に加古川歯科保健センターから4名の歯科衛生士さんに来ていただきブラッシングの指導を実施しました。4名ずつの12グループに分かれて、作業が止まらないように交代で受けました。最初は赤い液で染め出しをするので磨き残しが赤く表れるというものです。「あー、明日やと思ってた！ちゃんと磨けてない」と焦る人。ほとんど赤く染まらない“完ぺき”に磨けていた人が二人。片側だけが綺麗に磨けていて、もう片側だけが真っ赤っか！の人。本当に人それぞれに癖が出ています。歯磨きって本当に難しいものですよ。小さい鏡を片手に、真剣な表情で赤く残ったところを磨き直している姿が可愛らしかったです。(西野)



曾根小学校4年生福祉教育と見学会

毎年この時期に曾根小学校の4年生全員が人権学習の一環として、ワークホームを訪れてくれます。今年は11月20日、21日の2日間に渡り4クラスの生徒さんが見学に来てくれました。いつも見学の最後に「ここで働いている人の姿を見て投げ出さない事の大切さを、是非覚えて帰ってください。」と子供たちに伝えています。年を追うごとに働く姿勢が身につく、ピシッ！としている利用者さんの姿は誇らしく思えます。今後はもっとここで働く利用者さんの姿を地域の方々に知って欲しいと思います。



新人職員紹介

看護師の久木原洋子(くきはらようこ)です。
(好きな事)

- ・音楽を聴くこと(レコードを100枚以上持っています)
- ・映画
- ・旅行(特に海外)



(抱負)
今まで、勉強した事のない分野の仕事に就きますが、専門職の立場を生かしながら、利用者の方々と向かい合っていきたい。一日でも早く、職員の一員となれるように、頑張りたいと思います。(中右)



「父親の会」「保護者会バーベキュー大会」が開催

9月30日に予定されていた保護者会主催のバーベキュー大会でしたが、台風の為延期となり、10月28日に「父親の会」と同時開催することができました。当日は、暑くもなく寒くもなく絶好のバーベキュー日和で保護者・利用者総勢49名が参加しました。お母さん方が準備してくれ、お父さん方が焼いてくれ、利用者さんはここぞとばかりにお肉をほおぼっていました。お肉、焼きそば、焼き野菜、海鮮焼きとお腹いっぱい、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。楽しい企画を開催して下さった保護者会の皆さまありがとうございました。

バーベキュー大会に先駆けて行われた「父親の会」では、恒例となったプラダン製の養生板の作成をお父さん方をお願いしました。プラダン養生板の作成は今回で3回目という事もあり、手慣れた手つきで次々と完成していきました。バーベキューに参加のお母さんや利用者さんが手伝いに来てくれたりして今まで以上に活気があり、和やかムードの「父親の会」でした。(楠)



東播磨特別支援学校が校外学習に来られました！！

11月13日、東播磨特別支援学校の学生35名、教員15名が校外学習としてワークホームに来られました。当日は楠主任による講話、宮本による作業場見学案内を実施しました。作業場見学では、学生さんに防水シーツやタオルをたたんでもらいながら、日常ワークホームの利用者さんが行っている仕事を説明しました。特に防水シーツ等を入れる機械包装機にはみなさん興味津々でたくさんの方に体験していただきました。こういった機会を通して、色々な人に“ワークホーム高砂”を知ってほしいですね。(宮本)

